

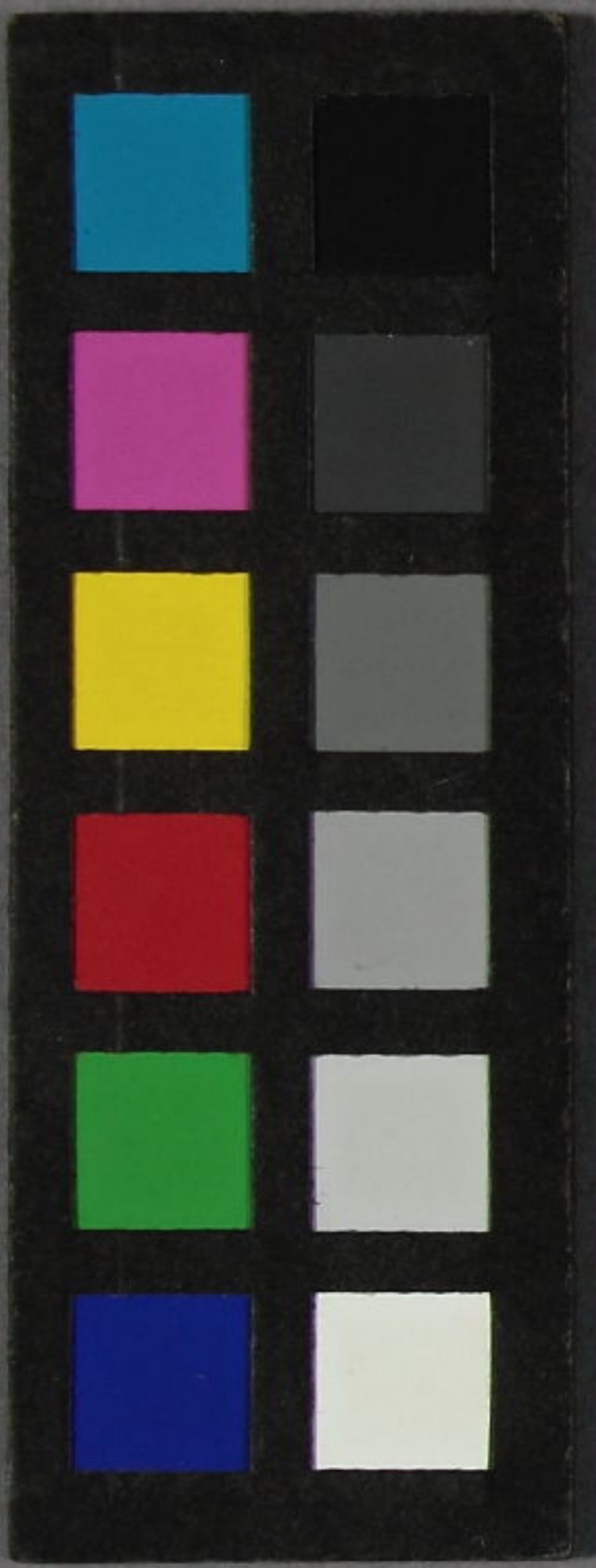
第一篇
內科學粹

傳染病篇完

千代子
水痘
後喉痛症候

特別
イ 4
3159
B39(1)

百十一



○デニク地ノ原因病候
○水痘、猩紅病候
痘、咳、疔、瘡、疥、疥、疥

傳染病目次

第一	腸窒扶斯
第二	パウ窒扶斯
第三	發疹窒扶斯
第四	麻疹
第五	風疹
第六	猩紅熱
第七	痘瘡
第八	水痘
第九	流行性感胃
第十	百日咳
第十一	寶扶埜里亞

14
3159
B39(1)

第三 麻拉星亞
 第二 再歸熱
 第十四 赤痢
 第十五 亞細亞虎列刺
 第十六 歐羅巴虎列刺
 第十七 急性全身粟粒結核
 第十八 百斯篤
 第十九 急性關節痿痺質斯
 第二 慢性關節痿痺質斯
 第三 筋肉痿痺質斯
 第四 破傷風
 第五 狂犬病

第二十四 流行性耳下腺炎
 第二十五 流行性腦脊髓膜炎
 第二十六 恙蟲病
 第二十七 癩病
 第二十八 テンシ熱



內科學粹

漆山又四郎編

第一篇 傳染病

第一 腸室扶斯

△定義 室扶斯菌ニヨリテ發スル急性傳染病ニシテ固
有ノ熱型、神經症、腸症、脾腫及ビ蓄膿疹等ヲ發ス

△原因 室扶斯桿菌ニ由リテ發ス

本菌ハ所在 糞便及尿ト共ニ体外ニ排泄セラル、殊ニ糞便ハ本病傳染ノ媒介者トナル、
本菌ハ体外ニ於テモ多少發育シ且長時間日間生活シ得
ルモノニシテ糞便、水及地中ニ於テ久シク生活スルノミ
ナズ乾燥ニ對シ抵抗カモ亦比較的強シ、腸室扶

- 鑑別疾患
- (一) 急性粟粒結核
- (二) 陰性敗血症
- (三) 中毒
- (四) 麻拉利亞
- (五) シンフルエツヤ
- (六) 急性發疹病
- (七) 發疹室扶斯
- (八) 旋毛蟲病

腸室扶斯

斯、常腸室扶斯菌ヲ嚙下スルニ由リテ感染スルモノニ
シテ其菌ハ胃ヲ通過シ小腸ニ至リテ繁殖ス然レテ
其最モ緊要ナル媒介物ハ含菌ハ飲料水及使用水
ナリ

室扶斯ノ傳染及蔓延ヲ扶助スル外部ノ關係及個
人的素質 (一) 年齡 十五歳乃至二十五歳ノ
少壯者多ク犯サル (二) 性 男子ニ多キガ如シ (三)
體質及生活法 屢強壯者ヲ侵ス (四) 免疫
一回之ニ罹ル牛ハ多クハ後天性免疫ヲ貽ス (五) 季
節 夏ノ末ヨリ秋(八、九、十月)ニ最モ多シ (六) 風
土 水道下水ノ設備ナリ汚物滯積スル等凡テ
不衛生的ノ土地ニ流行ス (七) 流行 大ナル都市ニ

於テハ四時絶エラズ或ハ一定ノ家庭内ニ流行ス

△解剖 本病ノ特有ナル變化ハ腸ニ存ス

第一週 腸粘膜充血シ。ハイル氏板及孤腺ハ

髓樣滲潤ヲ呈ス

第二週 此滲潤部ニ腐痂ヲ生ジ

第三週 剝脱シテ潰瘍ヲ殘ス 潰瘍ハパイ

エル氏板ニ相應シテ楕圓形ヲ呈シ腸ノ長軸ニ並
行ス大腸ニテハ孤腺ニ於テ潰瘍ヲ形成スルヲ以テ其
潰瘍ハ円形ヲ呈ス

第四週 以上ニ至レバ潰瘍ハ治癒シテ著色セル
癍痕ヲ殘ス病變ノ最モ盛ナル部ハ回七自辨ノ上部
即チ回腸ノ下部ナリ

腸、變化、他(一)腸間膜腺、腫脹及(二)脾臓、肥大ヲ見ル

△症候 一般經過

(一)潜伏期 約二週日 前駆症状トシテ全身倦怠、食慾不進、頭痛並ニ四肢疼痛ヲ覺スルアリ
(二)初期(第一週) 体温、朝方ニシテ下降シ夕刻ニ前日ノ夕刻ヨリモ高シ斯ノ如クシテ階段上ニ上昇シ常ニ頭痛アリ食思缺乏シ煩渴アリ口内乾燥シ舌苔ヲ帯フ大便多ク、秘結ス脾臓、第一週ノ終リヨリ腫脹ス
(三)極期(第二週) 熱ハ高度ニ稽留シ胸腹部、著薇疹ヲ生ズ腹部稍膨滿シ回首部ヲ觸按スルニ

熱ノ稽留

熱階段上ニ昇

熱弛張

回首部雷鳴ヲ發シ壓迫ニ由リテ過敏ナリ便通或ハ下痢シ或ハ秘結ス患者無慾ノ顔貌(室扶斯顔貌)ヲ呈シ嗜眠昏惰陥リ時々譫語ヲ発ス氣管枝加吞鬼ノ徵アリ
(四)第三週 至シバ熱ハ甚シク弛張シ心臟機能沈衰ス此期ニ種々合併症ヲ發スルモノニシテ就中最モ危険ナル腸出血及ヒ穿孔性腹膜炎ナリ輕症ニアリテハ熱ハ漸次ニ下降シ諸症後解シ患者徐々ニ恢復期ニ移行ス
○各自症候 (一)体温 第一週 体温階段状ニ昇騰シ毎夕平均前夕ヨリモ一度以上上昇シ其翌朝約〇.五度下降シ而シテ四日乃至七日ニシテ

遷延性空扶斯

極度ニ達ス(初期) 第二週(若クハ第三週)ニ
殆ト同度ニ稽留シ(極期) 第三週ニ熱度甚
シク弛緩シ 第四週ニ漸次解散ス而シテ熱ノ
下降ニ昇騰ヨリモ永キ時日ヲ要ス解熱期
初メ六熱度甚シク弛緩シ朝夕ノ差強シ不
明期、消耗期) 解熱期(終リニハ夕ノ熱モ亦
下降シテ漸次散淡ス(解熱期) 本病ノ末期
(解熱期)ニ至リテ熱連続持長シ數週ニ亙
リアリ之ヲ遷延性空扶斯ト云フ
(二)循環器系統(一)脈搏(一)脈搏熱ニ比シテ少數ナルハ本
病ノ特徴ニシテ通常ハ十乃至百ニ過キズ 且ツ
往々動脈壁ノ弛緩ニ由リテ脈搏重複スルアリ

他ノ急性病例ニ
肺炎、腦脊髄膜
炎等ニ白血球増
多症ヲ現スニ拘
ル本病ノ之ト反
對ニ白血球減少
症ヲ發スニ診
断上緊要ナル事
実ナリ

(2)心臟 本病患者ノ最モ多キ死因ハ心臟麻
痺ナリ (3)血液 赤血球及ビヘモグロビン減少シ白
血球モ亦減少ス
(三)消化機系統 (一)舌、汚穢褐色、苔ニ被シ乾燥龜裂
シ之ヲ拭出セシムル震顫ス 其他舌ノ室扶斯三角ヲ呈ス
(2)極期以後ニ於テ耳下腺炎ヲ見ルアリ (3)食慾缺
乏 (4)腸 (一)鼓腸症 (二)迴盲部痙痛 (三)迴盲部
雷鳴 (四)便秘 初期ニ屢秘結スレバ漸次下痢ヲ發
スニ至リ下痢ノ回数一日ニ行乃至數行ニシテ稀薄
淡黄ニシテ豌豆汁様ヲ呈ス(豌豆汁便) (五)腸
出血 第二週乃至第三週ニ多シ血量ハ痕跡ノ少キ
ヨリ一リ一テルノ多キニ達シ其回数ハ通常一行乃

至四行ナリハ腸穿孔第二週ノ終ヨリ第三週

起ル
(四)腸間膜腺腫脹

(五)脾臟腫大 第二週ニ於テ極度ニ達シ二倍大ナル

(六)呼吸器系統 氣管及氣管枝加卷見ハ第一

週ノ終ヨリ第二週ニ發ス細小氣管枝加卷見ハ進

ニテ氣管枝肺炎ト云又患者斷テ仰臥シテ肺後

下部ノ呼吸不十分トナリ加之心力衰弱ニ其部ノ

血液十分ナラザル為ニ沈墜性肺炎ヲ發スルナリ又

室扶斯桿菌ノ肺中ニ侵入シ室扶斯性肺炎ヲ

發スルナリ(肺臟室扶斯)

(七)頭痛 初期ニ症候ニシテ薦骨痛ヨリモ屢存ス

(八)神識昏惰、無感覺嗜眠、喃喃謔語、撮空摸牀、

健跳動(十)神經性重聽(土)大小便失禁

(土)皮膚薔薇疹 疹ハ帽針頭大乃至扁豆大淡

紅斑ニシテ少シク隆起ス 而シテ充血性ナルヲ以テ指壓

ニ由リテ全ク褪色シ容易ニ出血点ト區別シ得ベシ

而シテ第一週ノ終ヨリ第二週ハ初ニ發スルモノニシテ

胸腹及背部ニ發生ス其數ハ數個乃至三十個

ニシテ數日ニシテ褪色ス

(三)汗疹 最も多キ部位ハ下腹部ニシテ胸部頸部及

上腿ニ蔓延ス(五)口唇皸行疹 極メテ稀(五)褥瘡

(六)泌尿器系統 第一週ノ終及第二週ニ於テ屢

熱性蛋白尿ヲ現ス本病極期ノ尿ハ殆ト常ニ

インゲカシ及ビエトルリツヒ氏チアツオ反忘ヲ呈スルヲ
ヲ。反應ハ室扶斯ノ治癒ニ赴カントスル中ハ其症候
尙盛ナルニ拘ラス減弱シ而テ再發時ニ再ビ現出
ス

(五)恢復期 ニ於テハ患者甚シキ衰弱ヲ殘シ貧血
及ビ羸瘦ヲ呈シ容易ニ体温ノ昇騰及脈頻數ヲ
發ス此時期ハ食慾大ニ亢進スベシ

○本病ノ全經過 有熱期間ハ平均ニ五週乃
至五週ナリ而テ初發ヨリ全癒ニ至ルマデハ平均五
乃至十週ヲ要ス

○凝集反忘又
グロヘル氏反忘
室扶斯菌ニ本
診断 (一)緩徐ナル發病 (二)熱型 (三)脈ノ熱ニ比シテ
少數ナリ (四)脾腫 (五)薔薇疹 (六)下痢 (七)回盲腸

○ウヤゲール氏反
免疫血清ヲ注
加スルハ初メニ
立散在シテ運動
シタル各菌ニ互
接凝著シ菌塊
ヲ形成シ其運動
ヲ停止ス
部ノ疼痛及ヒ雷鳴 (八)氣管支加谷見 (九)腦疝 (十)白
血球減少症 (十一)ゲアツオ反忘ノ存在ニ由ル 其他糞
便尿薔薇疹膽汁ヨリ室扶斯菌ヲ發見スル時
診断最モ確實ナリ

○ウヤゲール氏反
其右ウヤゲール氏
ハ此試驗法ヲ踏
床的ニ応用シ疑
ハシキ疾患ヲ室
扶斯ト鑑別スル
目的ニ供シタリ
即チ疑ハシキ患
者ノ受疫液ヲ着
クハ血液ヲ採取
シ其一定量ヲ
室扶斯菌純

療法 (一)預防法 水道及ヒ下水管ヲ設備シ土
地ノ衛生ヲ善良ナラシムルヲ要ス
尿尿ハ石灰乳ヲ以テ消毒シ患者ノ身体ヲ清潔ナ
ラシメ患者ノ使用シタル便器直腸檢温器臥褥
襪衣布片等モ亦消毒スルヲ要ス

(二)藥物療法 本病ニ特效藥ナシ 但シ初期
ニ甘汞ヲ其レハ本病ノ経過ヲ良好ナラシムト云フ
(三)看護及食餌 就褥セシメ身体及精神ヲ

特培養液を混和し懸濁液を直に由りて検査し反衣の有無を検査し或肉眼的に試験管内の状態を観察す

安静ナラシムルニ病室ハ廣闊静肅ナルヲ措き過劇ノ光線ヲ避ケ空氣ノ流通ヲ良クシ温暖ニ過キカラシムルニ臥床ハ平坦ニシテ皺襞ナカラシムルニ重症ノ者ハ時々水枕ニ就カシムルニ其他水枕ヲ用テ頭部ニ氷嚢ヲ貽スルニ褥瘡ヲ防グニ屢臥位ヲ交換シ空氣固座ヲ用テ或樟腦精或酒精ヲ以テ潮紅セル部分ヲ洗滌スルニ食物ハ本病ノ熱性病ナル一腸疾患ナルトニ注目シテ措定セザルニカラス有熱時ニ全ク固形ノ滋養物ヲ廢止シ専ラ液状ニシテ消化シ易キモノヲ少量允數回ニ分與ス

冷水

アルコール

飲料トシテハ冷水ヲ其ノ精神ノ昏瞶セル者ハ夕トトボソケルモ時々之ヲ其フルヲ要ス其他塩酸リモノナーテ及果実汁ヲ其スルニアルコールハ多少体温ヲ下降シ神速及ヒ心臓ヲ鼓舞シテ興奮劑タルニシテ又蛋白質ノ分解ヲ助成スルノ效アリ解熱法 胸腹部ニ冷濕布ヲ纏絡スル法ヲ以テスルヲ可トス心臓衰弱ニ酒類ヲ用フ興奮劑トシテハカフェインニ麝香樟腦及エーテルヲ用フ既ニ褥瘡ヲ受スルニ三十倍ノペルーバルサムヨード

既ニ褥瘡ヲ受スルニ

フォルム、コロゲウム、ヨード丁、幾ノ貼布着リ、塗布
カリチール酸、五倍ノカリチール酸滑石、ヨード
フォルム或ハキセロフォルムヲ撒布ス

○**恢復期ニ於ケル療法** 食物摂生、他解

熱後二週マテハ離林セシメサルヲ要ス 精神感動
モ亦再發原因トナルヲ以テ人ノ訪問、長キ談話、
讀書、信書ノ披見等凡テ精神ヲ刺戟スル疑
ハル事ハ之ヲ避ケムベシ

第二 **パラ室扶斯**

△**原因** パラチチフス菌(A B 二型アリ、本邦ニ於テ

ハ專ラ B 型ナリ)ニ由リテ發ス

△**症候** 徐々ニ發スル熱性病ニシテ頭痛及ヒ全

身症候ヲ伴ヒ其経過 ハ三週乃至四週間ナ

リ蓄薇疹、脾腫、ゲアツオ反、心跳、胆汁様下痢

下血、口唇匍行疹等ノ症候アリ

又重症ハ脳症及ヒ重キ一汎症候ヲ發スレハ輕

症ハ熱性腸胃加吞兒ヲ呈シ或ハ熱ヲ發セザル

ヲアリ(逍遙性パラチチフス)

△**解剖** 室扶斯ニ類似スレハ腸潰瘍ヲ發ス

ルト少シ

△**診断** 臨床上本病ヲ腸室扶斯ト區別スレ

トヲ得ズ 本病患者ノ血液ハニハルトカフキ

氏腸室扶斯菌ニ對シテハワグターン氏反応ヲ

呈セザルモ、パラチチフス菌ニ對シテハ反応ヲ呈ス

●**治療法** 大野

其類屬凝集反志ヲ呈スルモノナリ

然レ其類屬凝集反志ヲ呈スルモノナリ

△豫後 良死ニ數ハ三%以下

△療法 腸室扶斯ニ同シ

第三 發疹室扶斯

△定義 強力ナル傳染力ヲ有スル傳染病ニシ

テ固有ノ熱型、皮疹、脾腫及ヒ神経症候ヲ呈

シ心臟衰弱及ヒ氣管枝加吞兎ヲ伴フ

△原因 病原未詳 此レ急性傳染病中ニ

於テ最モ感染シ易キ疾病ニシテ傳染経路

個人ノ交通介立者使用物品及空氣等ナリ

有熱期勿論潜伏期ニ於テモ既ニ傳染力ヲ

有スルガ如シ加之病毒ハ耐久性ヲ有シ何人モ

鑑別疾患

(一) 腸室扶斯

(二) 傳染力強シ

(三) 熱型

(四) 脈搏頻數

(五) 脾腫 早ニ發シ

(六) 下腹症 ナシ

(七) 神經症狀 無シ

(八) 骨節痛、結膜赤、皮膚及四肢疼痛

殆ド皆感受性ヲ有ス

貧困浮浪民敵地ニル軍隊監獄航海等

凡テ境遇ノ不良ナル場合ニ本病ヲ發シ易シ

△解剖 屍体ニ於テ本病ノ特徴タル皮膚ノ

發疹ヲ認識シ得ザルヲ以テ其他ニ特異ナル解

剖的變化ナシ其病變ハ他ノ熱性傳染病ト

等シ脾腫大諸臟器細胞ノ濁濁及ヒ脂肪

變性ナリ

△經過 一潜伏期 八日乃至十二日ナリ

(二) 前驅期 突然惡寒戰慄ヲ以テ發熱シ三

十九度乃至四十度ニ達シ脈搏頻數ニシテ百乃

至百二十ヲ算ス屢ニ惡心(二) 嘔吐(三) 胃圧重(四) 頭

痛(五)薦骨痛(六)關節痛(七)倦怠(八)顔面腫脹
潮紅(九)結膜鼻咽頭及(十)氣管枝(十一)炎症(十二)微
候(十三)脾(十四)肥大(十五)肝(十六)腫大(十七)尿管(十八)蛋白質
ヲ含(十九)ミ(二十)多ク(二十一)ハ(二十二)チ(二十三)ア(二十四)ッ(二十五)オ(二十六)反(二十七)応(二十八)アリ(二十九)シ(三十)病(三十一)初(三十二)ヨリ(三十三)嗜(三十四)眠
状(三十五)ヲ(三十六)呈(三十七)シ(三十八)五(三十九)夜(四十)間(四十一)譫(四十二)語(四十三)ヲ(四十四)發(四十五)ス
本期(四十六)ハ(四十七)三(四十八)日(四十九)乃至(五十)五(五十一)日間(五十二)ニ(五十三)シテ(五十四)發(五十五)疹(五十六)期(五十七)ニ(五十八)移(五十九)ル
(六十)發(六十一)疹(六十二)期(六十三)發(六十四)疹(六十五)ヲ(六十六)以(六十七)テ(六十八)特(六十九)徵(七十)ト(七十一)ス(七十二)疹(七十三)ハ(七十四)薔(七十五)薇
疹(七十六)ニ(七十七)シテ(七十八)類(七十九)円(八十)形(八十一)ヲ(八十二)呈(八十三)シ(八十四)帽(八十五)針(八十六)頭(八十七)大(八十八)乃至(八十九)至(九十)シ(九十一)シ(九十二)ス(九十三)大
ナリ(九十四)壓(九十五)迫(九十六)ス(九十七)シ(九十八)褪(九十九)色(一百)ス(一百零一)發(一百零二)疹(一百零三)ハ(一百零四)腹(一百零五)部(一百零六)ヨリ(一百零七)始(一百零八)マリ(一百零九)一
二(一百一十)日(一百一十一)中(一百一十二)ニ(一百一十三)胸(一百一十四)部(一百一十五)及(一百一十六)ヒ(一百一十七)肩(一百一十八)他(一百一十九)ノ(一百二十)軀(一百二十一)幹(一百二十二)四(一百二十三)肢(一百二十四)手(一百二十五)足(一百二十六)背
部(一百二十七)ニ(一百二十八)夢(一百二十九)覺(一百三十)延(一百三十一)ス(一百三十二)疹(一百三十三)數(一百三十四)ハ(一百三十五)屢(一百三十六)數(一百三十七)千(一百三十八)個(一百三十九)ニ(一百四十)達(一百四十一)シ(一百四十二)全(一百四十三)身
ヲ(一百四十四)被(一百四十五)覆(一百四十六)ス(一百四十七)ル(一百四十八)ト(一百四十九)アリ

熱ハ發疹後(一)時(二)少(三)シ(四)弛(五)緩(六)ス(七)凡(八)再(九)ヒ(十)次(十一)前(十二)ノ(十三)高
サ(十四)ニ(十五)升(十六)リ(十七)或(十八)ハ(十九)之(二十)ヨリ(二十一)モ(二十二)尚(二十三)サ(二十四)シ(二十五)ク(二十六)昇(二十七)騰(二十八)ス
第一(二十九)週(三十)ノ(三十一)初(三十二)ニ(三十三)至(三十四)シ(三十五)ハ(三十六)疾(三十七)患(三十八)頂(三十九)点(四十)ニ(四十一)達(四十二)シ(四十三)神(四十四)經
症(四十五)狀(四十六)甚(四十七)ク(四十八)一(四十九)神(五十)識(五十一)昏(五十二)瞠(五十三)シ(五十四)二(五十五)噴(五十六)嚏(五十七)ヲ(五十八)發(五十九)シ(六十)三(六十一)撮
空(六十二)排(六十三)床(六十四)ヲ(六十五)始(六十六)メ(六十七)回(六十八)騷(六十九)狂(七十)狀(七十一)ヲ(七十二)發(七十三)語(七十四)ヲ(七十五)發(七十六)ス(七十七)五(七十八)舌(七十九)ハ
厚(八十)シ(八十一)ク(八十二)破(八十三)リ(八十四)シ(八十五)屢(八十六)口(八十七)唇(八十八)ハ(八十九)皸(九十)行(九十一)疹(九十二)アリ
其他(九十三)患者(九十四)自(九十五)ラ(九十六)飲(九十七)食(九十八)物(九十九)ヲ(一百)擱(一百零一)取(一百零二)ス(一百零三)ル(一百零四)ト(一百零五)得(一百零六)ス
七(一百零七)尿(一百零八)閉(一百零九)及(一百一十)ヒ(一百一十一)西(一百一十二)便(一百一十三)ヲ(一百一十四)失(一百一十五)禁(一百一十六)アリ(一百一十七)ハ(一百一十八)脈(一百一十九)搏(一百二十)常(一百二十一)頻
數(一百二十二)ニ(一百二十三)シ(一百二十四)テ(一百二十五)小(一百二十六)且(一百二十七)軟(一百二十八)リ(一百二十九)九(一百三十)呼(一百三十一)吸(一百三十二)淺(一百三十三)表(一百三十四)ニ(一百三十五)シ(一百三十六)テ(一百三十七)氣(一百三十八)管
支(一百三十九)炎(一百四十)ノ(一百四十一)微(一百四十二)アリ(一百四十三)十(一百四十四)或(一百四十五)ハ(一百四十六)疹(一百四十七)ノ(一百四十八)出(一百四十九)血(一百五十)ス(一百五十一)ル(一百五十二)ト(一百五十三)アリ
熱(一百五十四)ハ(一百五十五)通(一百五十六)常(一百五十七)示(一百五十八)十(一百五十九)日(一百六十)乃至(一百六十一)十二(一百六十二)日(一百六十三)ニ(一百六十四)於(一百六十五)テ(一百六十六)下(一百六十七)降(一百六十八)ス(一百六十九)其(一百七十)下
熱(一百七十一)ス(一百七十二)ル(一百七十三)ヤ(一百七十四)多(一百七十五)ク(一百七十六)ハ(一百七十七)三(一百七十八)四(一百七十九)日(一百八十)間(一百八十一)ニ(一百八十二)散(一百八十三)漫(一百八十四)シ(一百八十五)テ(一百八十六)諸(一百八十七)症(一百八十八)候

漸次輕快ス

○本病全経過

平均十二乃至十七日間ナリ

△各症候

一 体温

腸室扶斯ニ及シ悪寒戰慄ヲ以テ始メリ既ニ發病後一日ニ於テ三十九度乃至

四十度ニ達シ通セリ七日乃至十二日間稽留シ

毎朝〇、五度許地從ス發熱ニシテ熱度多

少地從スレバ再ビ昇騰スルノミナラズ更ニ多ク

増加ス其下熱時ニ三四日間漸次下降ス

二 脈搏 腸室扶斯ニ及シテ体温ニ依リテ

増加シ百乃至百廿ニ至リテ重復ス

三 脾腫 早クヨリ萎ミ其減退ニ亦速ナリ

四 皮膚ノ變化 ハ診斷上必要ナル徵候ニシテ

疹ハ發病後亦四日乃至五日ニ現シテ通常

下腹部肩胛部及ヒ背部ニ生シ胸部及ヒ

上腹部ニ甚々延シ次ニ四肢ニ波及ス顔面

ニ於テ亦甚ク稀ナルニ僅少ナリ

甚微疹ハ淡紅色ニシテ帽針頭大乃至シシテ

大ニ有シ充血死シテ以テ圧迫ニヨリテ靛色ス

疹ハ兩三日ニシテ消散スルモノアルニ中等以上ノ疹ニ

於テハ平均七日乃至十日間存在シ其消失時

ニ落屑ス

五 神經症狀 顯著ニシテ(一)頭痛(二)眩暈(三)薦

骨痛(四)四肢ノ疼痛(五)精神ハ溷濁若シハ

- 鑑別疾患
- (一) 疹空室扶斯
- (二) 藥劑疹
- (三) 風疹
- (四) 猩紅熱
- (五) 痘疹

其他ハ腸室扶斯ニ同ジ

第四 麻疹

△ 定義 主トシテ小兒ヲ侵ス急性傳染病ニシテ固有ノ熱型、皮膚ノ發疹及ヒ粘膜ノ加唇兒ヲヨメス

△ 原因 病原未詳ナレバ血液淚液鼻涕咳痰及ヒ皮膚水泡ノ内容液ニ存スルガ如シ傳播ハ人ヨリ人或ハ空氣ノ媒介ニ由ル

都會ニ於テハ散在性ニ来ルコトハ多クハ流行ス流行ハ冬期及ヒ春期ニシテ其持続ハ平均四個月乃至六個月ニ亙ル

△ 解剖 皮膚ノ疹消失シテ屢異常ヲ呈セザルコト

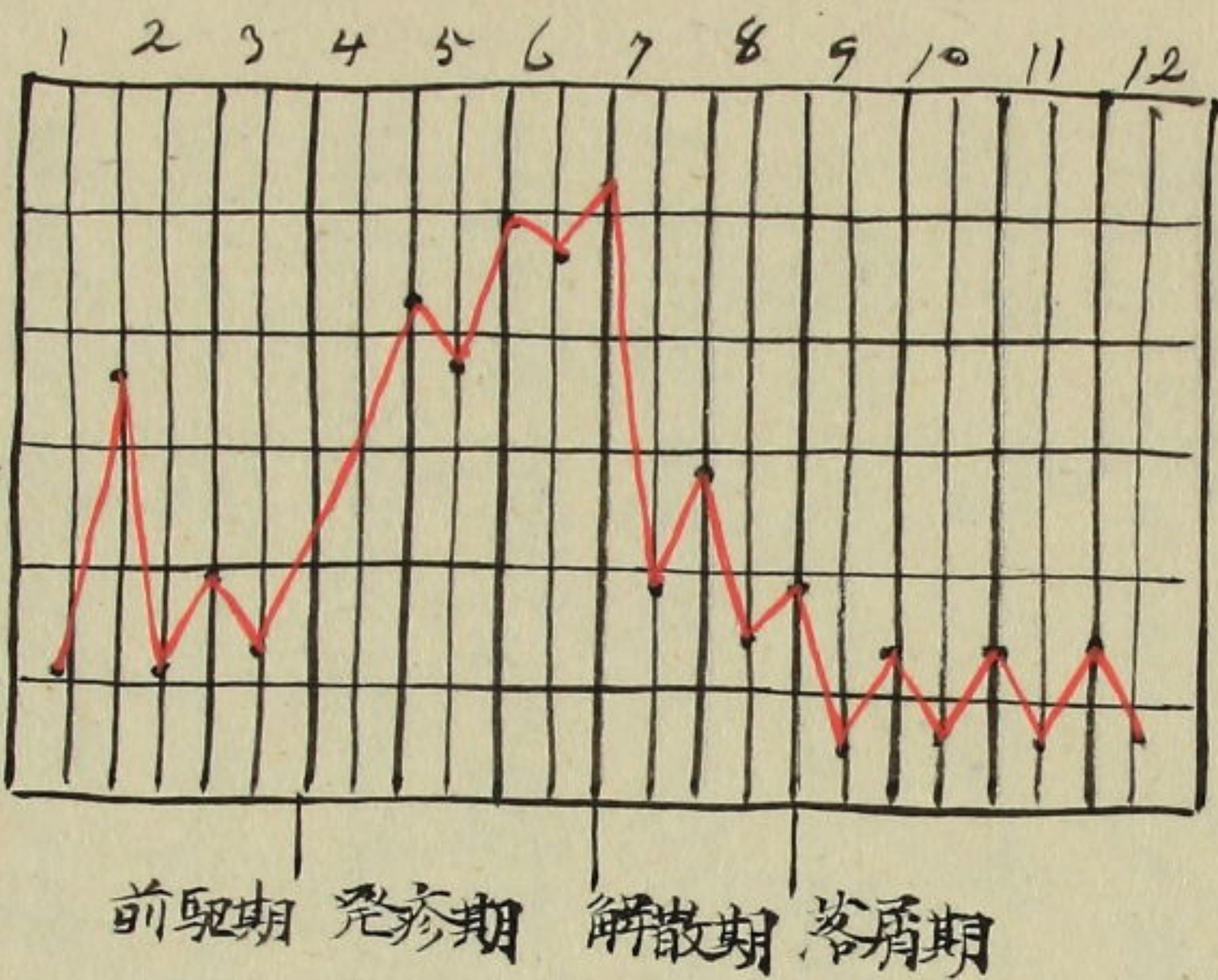
昏瞠シ或ハ騒狂状ヲ呈シ或ハ沈鬱状トナリ(6) 其他撮空摸床(7)四肢震戦(8)重聽等アリ 腦症ハ第一週終若クハ第二週始ニ於テ最ニ顯著シテ下熱スルニシバ漸次恢復ス

△ 豫后 腸室扶斯ヨリハ不良ニシテ死亡數ハ平均十五乃至二十%ナリ

△ 診断 (一) 熱型 (二) 頻脈 (三) 軀幹及ヒ四肢ニ於テ多數ノ蕁麻疹 (四) 早クヨリ現シテ早ク減退スル 脾腫 (五) 重キ神經症候等アリ

△ 療法 傳染力猛烈ナルヲ以テ豫防法ヲ嚴重ニシ屍体ハ三%ソール水若クハ五%石炭酸水ヲ以テ洗ヒ且此液ニ浸シタル布ヲ以テ纏被スベシ

過經ルケ於=疹麻



ニ於テ六戦慄或ハ反復シタル悪寒ヲ以テ三十九度乃至四十度ニ達シ翌日多少弛緩シ或ハ屢常温ニ復ス其後一兩日間ハ熱度中等ニシテ初メノ如クニ高ノ昇升ス而テ無反疹スヤ体温再々上昇シ

ニヨリテ常度ニ復ス
 (四) 落屑期 ハ熱一般症候及ヒ粘膜炎症ノ减退ト共ニ週内内皮膚ノ糠秕状ニ落屑スルヲ見ル 故ニ本病ハ感染後四週間終リニシテ治癒スルモノトス
 △各症候 (一) 熱 前駆期

アリ又時トシテハ黄色ハ斑点及ヒ血斑ヲ認ム。鼻、喉頭、氣管支、結膜及ヒ中耳ニ加答見アリ時トシテハ肺ヲ認ム

經過

(一) 潜伏期 八九日乃至十日ナリ
 (二) 前駆期 (内疹期) (一) 戦慄若クハ反復スル悪寒ヲ以テ始マリ三十九度乃至四十度ノ高热ヲ及シ(二) 結膜、鼻腔、咽頭、氣管及ヒ氣管支ニ加答見及ヒ内疹ヲ認ム
 本期ノ持続ハ三日乃至四日間ニシテ熱ハ一時稍下降ス
 (三) 發疹期 發疹ト共ニ高热ヲ及シ粘膜炎、疹モ亦強度トナリ一般症候アリ病ハ極度ニ達ス 其持続ハ四日乃至五日ニシテ体温ハ分利

コプリック氏斑注
暈ラ以テ円鏡
ラタル白色帽
針頭大ノ小点
ミテ白歯ニ對
スル頬粘膜上ニ
不定數ニ現出ス

多ク前駆期ニ於ケルヨリモ高度ナリ次テ發
疹ハ全盛期ヨリ分利状ニ下極ス
二發疹前駆期即チ内疹期ハ亦二日終
於テ軟口蓋及ヒ硬口蓋ニ内疹(粘膜炎)ヲ發ス
此疹ハ類円形若クハ邊緣不正ナル口蓋ニ大或小
之ヨリモ少シク大ナル赤色斑ニシテ之ト同時若クハ
少シク早クコプリック氏斑ヲ發ス
皮膚發疹ハ感深右十四日ニシテ再度ハ熱發ト共
ニ發ス其疹ハ限局性ニシテ少シク表面ヨリ隆起セ
ル鮮紅色若クハ暗赤色ノ斑ナリ疹ノ形ハ類円形
長形時トシテハ半円形ニシテ其大サハ二乃至三密
迷ノ間ニアリ而テ充血性ナルヲ以テ指圧ヨリテ褪色

スルモ後ニハ压迫スルモ黃色若クハ褐色ノ斑ヲ殘ス
是レ充血ニ滲出物ヲ保存シタルニ由ル疹ハ廣泛性
ニ融合セズシテ各斑ノ間ニ常ニ健康ナル皮膚ヲ存
スルヲ特有トス而シテ先ヅ顔面ニ現ハレ世四乃至三
十ニ時間ニシテ背部手腕関節前膊軀幹及
下肢前面等ノ順序ヲ以テ全身ニ蔓延ス
發疹期ハ亦三日ニ及ビバ疹ハ極度ニ遠ス開花期
然レ後其出現ノ順序ニ長ヒテ顔面ヨリ漸次褪色
シ次テ糠狀ニ落屑ス
三粘膜炎 結膜充血見アリテ結膜潮紅流
淚及ヒ羞明ヲ發シ鼻加唇見アリテ噴嚏今泌増
多及ヒ鼻道閉塞ヲ來ス 其他咽頭及ヒ氣

管又喉頭加吞見アリテ嘔下疼痛声音嘶哑
及に咳嗽アリ 且つ往々氣管支加吞見ヨリ波及
シテ毛細管氣管支をテ及し或は氣管支をテ及

胎後病

合併症 (一) 中耳炎 (二) 咽頭及喉頭実在的里
(三) 氣管支肺炎 (四) 下痢等アリ 且つ (五) 腺病或
結核ヲ貽ス

△**診断** 流行時ニ容易ナリ 熱度粘膿加吞
児及に内疹アリ時ハ之ヲ疑フ麻疹ニ措クベシ
而テ再度熱度ト共ニ度疹を片ハ診断確實ナリ
△**療法** 廣潤心室内ニ就褥セシメ羞明アルヲ以テ
頭部ヲ窓ニ背カシメ或ハ少シク病室ヲ暗クス

呼吸器粘膜炎ニ於テ症アル中ハ水蒸氣ヲ及シテ室内
ノ空氣ヲ湿润ナラシメ

食物 輕易流動性食物

飲料 リモナーレテ

結膜炎 ハ三十倍ノ硼酸水ヲ以テ洗滌

咽頭炎 アラバ含嗽セシメ

氣管支炎 ニハ祛痰劑ヲ投ジ

心衰弱 ヲ起シタル者ニ葡萄酒、バナキタリス

皮膚痒感 ニ消毒性脂類ヲ塗布

其他對症的療法ヲ行フ 譬ハ咽頭実在的里

ニ對シテハ血清療法ヲ行フガ如シ

且つ恢復期ニハ感冒ヲ避ケシムルヲ要ス

呼吸器

第五 風疹

△定義 軽度熱發、粘膜加唇見及に發疹ヲ現ス急性也此病ニシテ短小時日ニテ経過ス

△原因 病原未詳 本病小兒ヲ侵シ其流行ハ春夏ノ候ニ多シ

△症候 (一)潜伏期 平均二週乃至三週

(二)前駆期 六麻疹ノ如ク粘膜炎、鼻咽頭及氣管支加唇見ヲ發シ羞明、嘔吐、及咳嗽アリ 三十八度乃至三十九度ノ熱發ヲ示ス 才二日ニシテハ若疾ス 其病ハ顔面ニ生じ才三日ニ漸次頭部、

軀幹及上下肢ニ蔓延ス

疹ノ形ハ帽針頭大乃至シシテ大類円形ヲ

呈シ僅ニ隆起ス蕁麻疹様疹點ニシテ指圧

由リテ褪色ス而シテ顔面ヨリシテ其褪色

ヲ始メ二三日ニシテ消滅ス 落屑ハ著シカラス

皮疹ノ他口腔及咽頭ニ赤色ハ斑點ヲ現ス

△診断 前駆期ノ持続麻痺ヨリモ短ク体温

僅微ニシテ一般症候少ナリ皮膚疹ノ持続亦遠

ニ短シ

△療法 就褥セシメリモナラザルニ合嗽料ヲ用フ

○附之豫后 良シテニ罹患スルハ免疫性ヲ得

第六 猩紅熱

△定義 熱痘及に固有ノ熱痘ヲ曰スルニ急性
熱痘病ニシテ咽頭及に屢腎臟ヲ侵ス

△原因 病原未詳 其傳染経路ハ人ヨリ
人ニ或ハ介立者使用物品及に空氣ノ媒介ニ由
ル 本病ノ侵入門ハ恐ラハ扁桃腺ナリ稀ニハ

皮膚ノ外傷或ハ產褥子宮ナリ
流行ハ秋及ヒ冬ニナリ
本病ノ毒素ハ強キ耐久性ヲ具スルヲ以テ病室
衣服什器玩具書籍書翰等ニ由リテ傳
播ヲ招クコトアリ且ツ數月乃至數年ヲ經タル後ニ
於テ尚能ク人ヲ感染フコトアリ

- 鑑別疾患
- (一) 麻疹
- (二) 風疹
- (三) 敗血症ニ因ル熱疹
- (四) 藥物(アスピリン
安知必林或ハ魚
肉(蟹青魚族)
ニ因ル熱疹
- (五) 紅疹
- (六) 丹毒

侵入門ハ扁桃腺

△經過 (一) 潜伏期ハ甚ク差異アルモ通常數
日ナリ (二) 前駆期ハ反覆シタル惡寒若クハ戰
慄ヲ以テ三十九度以上ノ熱ヲ來シ(1)頭痛(2)精
神恍惚(3)痙攣(4)嘔吐ヲ發シ(5)咽頭ニ灼熱ハ
感アリ(6)屢睡下時ノ疼痛ヲ覺エ(7)頸腺腫脹ス

(三)翌日若クハ既ニ同日中ニ發疹ス 疹ハ先ツ頭
部ニ現シ次テ四肢ノ伸側ニ現即及ビ手足ニ
蔓延シ其發疹顯著ナリ 顔面及に頸部ニハ
少シク疹ニシテ猩紅色ナル帽針頭大ノ小斑
ニシテ稍隆起シ而テ各疹相融合シテ汎發性
潮紅ヲヨモス

頸腺腫脹
汎發性期

咽頭ノ粘膜炎加各兒ノ他内疹ヲ生ズ

舌ハ苔ヲ被シ其人全血猩紅色ヲ呈シ且乳
 嘴腫脹ニ由リテ不平トル(西後益子状舌)
 其他結膜全氣管支カアリ 頸腺ノ他他部
 ノ淋巴腺モ亦腫脹ス 尿中ニ蛋白ヲ有スル
 一アリ也疹期ハ四日乃至六日間持続シん後
 四落屑期ニ移ル其落屑ハ部位ニ由リ或
 ハ糠狀狀或ハ膜狀ヲ呈ス 而テ之ト同時ニ咽頭
 ノ赤赤及腺ノ腫脹消失シ熱ハ漸次下降ス
 此期ノ持続ハ一定セザルモ約ニ週間ナリ
 △各自症候 (一)熱候 体温ハ急ニ昇騰シテ
 三十九度以上ニ達シ翌日更ニ稍々上昇ス
 熱ハ發疹ノ全盛期間稽留シ疹ノ褪色ト共

ニ散漫狀ニ下降ス
 (二)脈搏ハ熱ニ比スレバ多ク有熱時ハ一分間百
 二十乃至百五十搏以上ヲ呈ス
 (三)發疹 疹ハ帽針頭大ニシテ初メハ鮮紅色
 ナレバ後ハ紅色ヲ増シ多クハ其周圍ヨリ隆起ス
 疹ト疹トノ間ニ初メニ尚健康ナル皮膚ヲ存ス
 ルモ後ニ腫脹潮紅シ汎発性ノ紅色ヲ呈ス
 疹ハ初メ鎖骨下部及頸部ニ現レ一日内ニ
 顔面頭部軀幹四肢及下肢ニ蔓延ス
 而テ顔面潮紅腫脹スニ拘ラス口因ハ蒼白
 ナリ
 關節部殊ニ其伸側ニ於テハ也發疹甚ク顯著

全身全足ノ形態

ニシテ試ニ既得ヲ以テ皮膚疹部ニ線状ヲ劃ス
ニ血管收縮シテ白線ヲ殘ス 又發疹ノ蔓延ニ
一致シテ淋巴腺ノ腫脹ヲ見ルコトアリ
落屑ハ最初ニ發疹シタル部位即チ頭部
リ始メテ頭部顔面部頸部軀幹及上下肢上部
ニ於テハ糠秕状ニ落屑スレドモ(糠秕状落屑)
手足ヨリ落屑スル表皮ノ膜状者ハ層片状
(膜状者ハ層片状落屑)ヲナシ時トシテ全
身全足ノ形態ヲ存スルコトアリ
四口腔及咽頭ノ變化(一)咽頭カ(猩紅熱性
安魏那)(二)猩紅熱性実布の里此病ノ壞死性
炎症ヲ現ス(三)口内炎(四)顎下及頸部淋

○腎ヲシテ
早ニ顔面腫
眼腫ニ浮腫
其ノ陰部及其
其他ノ部分ニモ
蔓延シテ膿疱
膿腔ニ浸潤
液ヲ生シテ腫
ニ亦浮腫ヲ惹
ス尿量ニ減少
レ尿ハ濁濁
ヲ多量ニ分泌
物アリ之ヲ鏡
檢ニシテ皮肉塊
毒白血球アリ

巴腺腫脹ス(五)舌ノ腫脹ニ固有ノ西復盆
子状舌ヲ口トス
(五)腎臓炎 最モ重要ニシテ且危険ナル合
併症ナリ
(六)關節及骨ノ變化 上下肢ノ關節ニ腫脹
ヲ惹スルコトアリ
(七)心臓ノ變化 有熱時ニ体温ニ比シテ脈搏
頻數トナリ一分時間ニ百廿乃至百四五十ヲ
算スルコトアリ
以呼吸器 氣管支カ加各兒性肺カ
纖維性肺カ及肋膜炎ヲ併發スルコトアリ
診斷 (一)疾病ノ急發 (二)安魏那 (三)覆盆

尿中多クノ蛋
白質ノ存在ヲ
証明ス
腎臓ニハ約四週
乃至六週ニシテ
經過ス

子舌(4)固有ノ癩疹及ニ膿状ノ落屑(5)淋巴腺ノ腫脹等ナリ

療法 豫防法ヲ嚴重ニシ專衛生ノ食餌的療法ヲ行ヒ病室ニ廣闊ナルヲ撰ビ空氣ノ流通ヲ良クシ食餌トシテ流動性食物殊ニ牛乳鶏卵等ヲ其ノ皮肉ニ扁桃油ヲ五%石炭酸軟膏等ヲ塗布シ塩刹、
研酸過マカシ酸カリウム等ヲ以テ含嗽セシム
高热ニ對シテハチキリニス、ストロファン、下等葡萄酒ヲ用ヒ或ハ樟腦ノ皮下注射ヲ行フ
其他尿中蛋白ノ検査ヲ日々行ヒ以テ腎臓ニ有セラ檢シ尿赤ヲ患ヒシタル中ハ保溼及ニ

牛乳療法ヲ行フニ

第七 痘瘡

△定義 強度ノ傳染力ヲ有スル急性癩疹病

ニシテ固有ノ皮膚疹及ニ熱型ヲ有ス

△原因 本病ノ原因ハ微生體ニシテ其細菌

ナルカ將タフコトヲオエシナルカハ未メ明ナラス

其病毒ハ痘疱内容物中ニ存シ其膿疱乾

燥ニテ痂皮トナルモ尚傳染力ヲ有シ久時之ヲ貯

藏シ得ベシ

感受性ノ種痘セテ限普及性ナリ

本病々々毎ノ進入ハ呼吸器ナリ

一日本病ニ罹ルハ約十ヶ年尚免疫性ヲ得

- 鑑別疾患
- (一) 麻疹
- (二) 癩疹室挾斯
- (三) 猩江熱
- (四) 觸接性膿疱疹
- (五) 吐瀉石軟膏
- (六) 疹性多形紅斑

潜伏期
前驱期

症候及経過 (一)潜伏期約十日乃至十五日
(二)前驱期 戦慄著リ、反復シ、心惡寒ヲ以テ発
熱シ三十九度乃至四十度以上ニ達シ約三日間稽
留シ此際ハ脈搏頻數、呼吸數増加、頭痛
等ノ腦症並ニ煩渴、食思缺乏等ノ消化症候
ヲ發シ且輕度ノ結膜赤咽頭赤及氣管炎
等ノ症候アリ脾臟ハ往々腫大シ、尿ニ蛋白質
ヲ含ム 殊ニ注意スルニハ劇甚ナル腰痛ナリ
亦二日或ハ時トシテ其前後ニ前驱疹アリ
疹ハ或ハ麻疹様或ハ猩江熱様ニシテ下腹部上
脛内面(所謂ジモシ氏脚三角)上膊内面及腋
窩(肩胛三角)ニ發シ暫時ニシテ消散スセド出

腰痛
前驱疹

血疹ハ暫時残留スル
發病後亦四日ニ至リテ熱度著ク下降シテ皮膚
ニ發疹ヲ現シ饒多ノ疹ヲ生ジ膿疱ヲ形成シ
テ再度ハ発熱(灌膿)ヲ起スル重症ノモノヲ
真痘ト稱シ疹稀疎ニシテ灌膿熱輕微
ナルカ或ハ全く缺カスル輕症ノモノヲ
假性痘ト稱ス

甲 真痘

發病亦四日ニ至リテ顔面殊ニ前額ニ類円形ノ
小红斑ヲ生ジ次テ軀幹及上肢ニ蔓延シ終ニ
下肢ニ波及ス(發斑期)
亦五日ニ至リハ斑點増大シ此薔薇疹上ニ尖銳ナル

發斑期

薔薇疹期

(五) 水疱期

蕾疹ヲ生ズ(蕾疹期)
示、日ニ至シ、蕾疹ハ變ジテ水疱トナリ(水疱期)
漸次増大シテ其中央ニ陷凹ヲ認ム(痘疹注又ハ痘
疹)

(六) 膿疱期

示九日ニ至シ、痘疹ハ發育完成シテ膿疱ニ變ズ
(膿疱期)又ハ灌膿期(膿疱ノ大サハ豌豆大ニ
達シ數密迷ハ幅員ヲ有スル赤暈アリテ之ヲ鏡ヲ
ス患部ニ緊張性疼痛アリ熱ハ再び昇騰シ
一般痘候増劇ス膿疱期ハ約三日ニシテ終ル
示十日ニ至シ、結痂期又ハ乾燥期トナリ熱性
痘候減退シ膿疱ハ或ハ破裂シ或ハ破裂セバ、
漸次乾燥シ遂ニ痂皮ニ變ズ、此時期ニ劇

(七) 結痂期

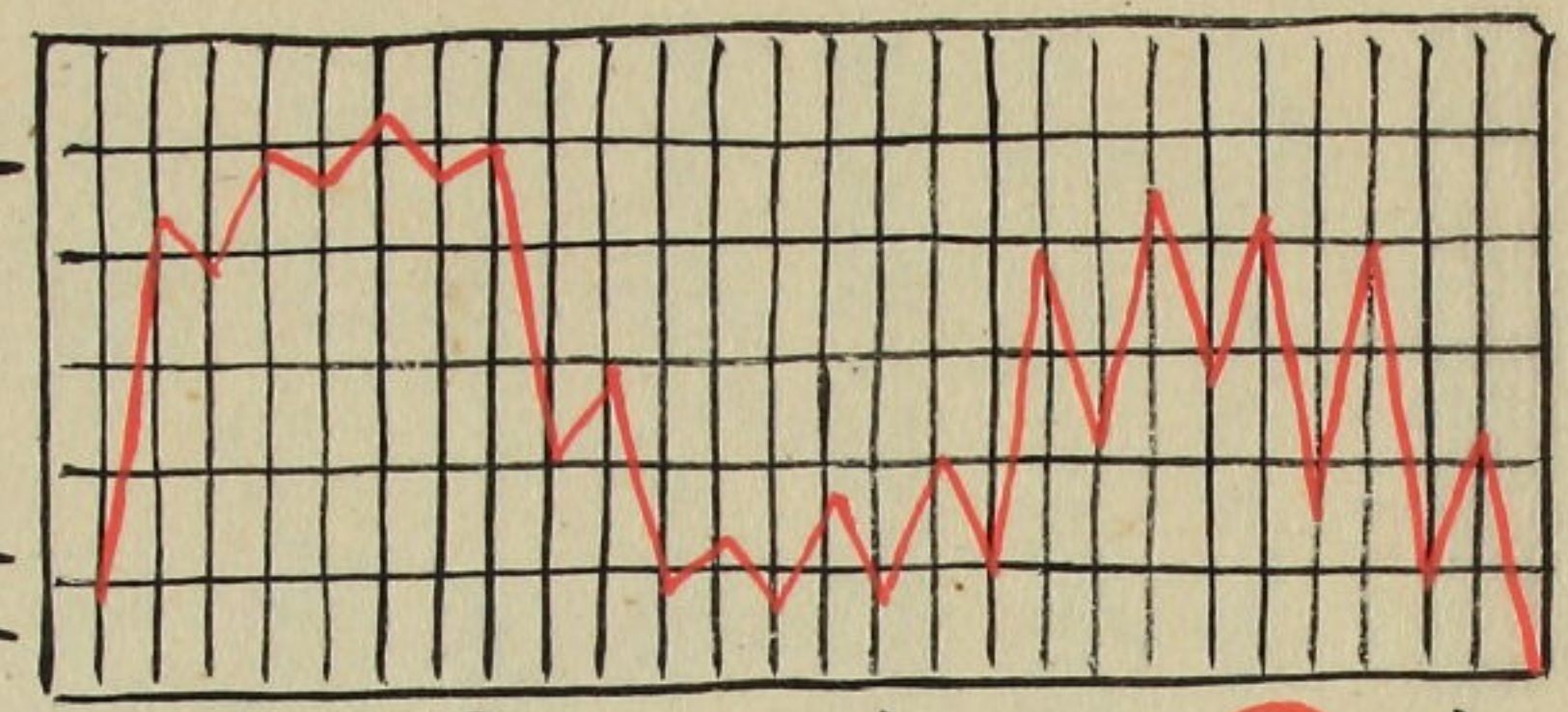
(八) 落屑期

痂痕

内疹

痘疹ニ於ケル熱型

前期 中期 後期
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13



甚ハ搔痒ヲ發ス

示十日ヨリシテ痂皮ハ徐々ニ脱シ活
ス(落屑期)而テ其部ニ褐赤色ノ
斑點ヲ殘シ真皮ノ浸サレタル中ハ
褐赤色放線狀ノ痂痕ヲ生ズ痂
痕ハ後ニ至リ、白色ニ變ズ
真痘ノ持續時間ハ約四乃至
六週日ナリ

皮膚ノ發疹ト同時若クハ之ヨリモサシク早く粘
液膜ニ至リ之ト同様ノ疹ヲ發ス(内疹)

乙 假痘

痘疹ノ輕症ニシテ前駆痘候既ニ輕微ナリ

後疹ハ僅少ニシテ往々膿疱ヲ形成セズ水疱ニ
止マレトアリ(水疱性假痘)
熱ハ後疹ト共ニ常ニ復シテ再び上昇セズ
即チ化膿期ノ存セザルヲ以テ本病ノ特徴トス
△診断 (一) 膈骨痛 (二) 前駆後疹 (三) 熱ノ
経過 (四) 後疹等ニ由ル
△豫後 區々ニシテ無疹痘及假痘ハ佳良ナ
レ且湊合痘及出血性痘瘡ハ不良ナリ
前駆症輕キ良ニシテ膈骨痛ノ劇甚ナルモ
妊婦産褥衰弱者酒客高齢及こ此見
ハ危険ナリ
死亡數 化膿熱ヲ度スル者ニテハ十五乃至

二十% 或ハ其以上ナリトス
△療法 直ニ患者ヲ隔離シ且嚴密ニ消
毒法ヲ行フヲ要ス
患者ハ廣闊ニシテ空氣ノ流通良キ病室ニ
シ赤色ハ布ヲ以テ窗ヲ覆フべし
室ノ温度ハ勿氏十度ヲ起スニカラス
食物ハ取飲サキ流動物ヲ與一口内ヲ
清潔ナラシム
内服薬トシテ、酸性飲料キ、皮膚癢酒類
等ヲ用フ
發熱及頭痛ハ頭部ニ氷嚢熱ニ對シテ
冷電氣ヲ行ヒ下熱劑ヲ投スルヲアリ

疥癬に類然しる
部位に多し其
生スルモノ

腰痛ニ對シテ、猥リニ局所性ノ皮膚刺戟ヲ

施スベカラズ

皮膚ノ疼痛及ビ堅張ヲ減スルニ軟膏又ハ

油ヲ塗布シ或ハ冷濕布置法若クハフリス

ニツク氏滯治法ヲ用フ

皮膚疹ヲ搔破セザラシムルニ爲シ、兩手ヲ束縛

シ顔面ニ口鼻及ビ眼ニ衣シテ截痕ヲ有

スル假面ヲ被フ

口内及ビ咽喉頭ノ疹ハ塩水ヲ以テ洗滌

シ若クハ舌吸セシメ或ハ氷片ヲ含マシム

眼病ハ硼酸水ヲ以テ洗滌且置法ヲ行フ

○豫防法 種痘ヲ行フニアリ

第八 水痘

○鑑別疾患
一 假痘

△原因 本病傳染性ノ小兒病ニシテ散在性

或ハ流行性ニ及ビ其ノ感染ハ患兒ト交通ス

ルニヨリ或ハ介立者及ビ無生活体ノ媒介ニ由

リテ

△症候 潜伏期ハ約ニ週日

多クハ前駆期ナリ、輕易ハ熱費ト共ニ皮膚疹ハ

疹ハ初メ顔面ニ現シ漸次軀幹及四肢ニ

及ブ而テ赤色類圓形ノ蕾疹ニテ數時

ニシテ水疱ヲ形成ス 水疱ハ豌豆大ニ達シ

其中央部陥凹シ透明ノ色澤明ナリ

既ニ才二日ニ於テ熱下降シ三日及ビ五日好

ク

疥癬乾癬とテ如皮ヲ癢ニ南は三日乃至
七日ヲ癢シハ癢痕ヲ遺ワズシテ剝脱ス
本病ニ因有タル疥ハ一高ニ發生セズシテ
陸續新生シ皮膚上ニ此ハ疥ノ現存
スルトシ

皮膚ノ他疥癬ニモ皮膚ノ癢アリ

疥癬 昔ニ十年以下ノ小兒ヲ侵スル疥癬
症候ナキナリ、若熱ヲ以テ皮膚ノ癢ノ短
時日ニ纏ヒタル、此ハ疥癬ノ根在タル
子ニ依リテテ疥癬因難ナリ

療法 良

對症的ニテ疥癬法癩スルヲ就禱セシム

- 鑑別疾患
- 一) 單純感冒
- 二) 腸室林斯
- 三) 肺炎
- 四) 急性粟粒結核
- 五) 流行性腦脊髓
炎

第九 流行性感冒

定義 インフルエツガ菌ニ由リテ起スル急性熱
性傳染病ニシテ全身症候強ク專呼吸器
ヲ侵シ往々消化器ヲ侵ス

原因 患者トノ交通介在者及ニ患者ノ使
用タル物品ニ由リテ感染シ 流行者ハ大流
行ヲ来ス

其傳染ニ病毒ノ呼吸器殊ニ鼻腔ニ吸入
セラルニ由ル

病候 潜伏期 一日乃至三日

前駆症候ナリ突然寒戰慄ヲ以テ發熱シ
三十八乃至四十度ニ達シ一日乃至數日間持重

流行性感冒

○**流行性感冒**
○**頭痛**、**背骨痛**、**骨痛**、**及**、**肢痛**、**アリ**、**甚**
○**シ**、**ト**、**疲勞**、**及**、**ヒ**、**食慾**、**不進**、**ヲ**、**来ス**、**多ク**、**ハ**、**鼻**、**咽**
○**頭**、**喉**、**頭**、**及**、**氣管**、**支**、**ニ**、**加**、**テ**、**各**、**ル**、**アリ**
○**本病**、**熱**、**發**、**ノ**、**他**、**呼吸**、**器**、**ノ**、**侵**、**サ**、**ル**、**コト**、**アリ**、**或**、**ハ**
○**消化**、**器**、**神**、**經**、**器**、**ノ**、**侵**、**サ**、**ル**、**コト**、**アリ**、**或**、**ハ**、**上**、**ノ**
○**各**、**症**、**候**、**ヲ**、**口**、**ニ**、**示**、**ス**、**ル**、**コト**、**アリ**

- (一) **單**、**純**、**性**、**ト**、**シ**、**ル**、**コト**、**ガ**、**熱**、**輕**、**症**、**ト**、**シ**、**テ**、**熱**、**發**
○**他**、**頭**、**痛**、**倦**、**怠**、**食**、**慾**、**不**、**進**、**ヲ**、**来**、**ル**、**コト**、**ト**、**熱**、**ト**、**伴**、**フ**
○**症**、**候**、**アリ**、**テ**、**熱**、**ニ**、**週**、**間**、**ヲ**、**続**、**シ**、**テ**、**他**、**ノ**、**症**、**候**
○**譬**、**ハ**、**呼吸**、**器**、**手**、**統**、**ノ**、**症**、**候**、**缺**、**ル**、**時**、**ハ**、**腸**、**胃**
○**扶**、**斯**、**ニ**、**類**、**似**、**ス**、**ル**、**コト**、**アリ**、**テ**、**空**、**扶**、**斯**、**性**、**ト**、**シ**、**ル**、**コト**、**ガ**
(二) **神**、**經**、**性**、**ト**、**シ**、**ル**、**コト**、**ガ**、**熱**、**ノ**、**他**、**熱**、**ニ**、**對**、**シ**、**テ**、**比**、**較**

○**的**、**重**、**ト**、**神**、**經**、**症**、**候**、**(**、**頭**、**痛**、**背**、**痛**、**肢**、**痛**、**咽**、**骨**、**痛**、**神**、**經**、**痛**、**不**、**眠**、**症**、**)**、**アリ**、**テ**、**呼吸**、**器**、**及**、**消化**、**器**、**症**、**候**、**ハ**、**全**、**ク**、**缺**、**ル**、**ス**

- (三) **加**、**テ**、**各**、**ル**、**呼吸**、**性**、**ト**、**シ**、**ル**、**コト**、**ガ**、**鼻**、**喉**、**頭**、**氣**
○**管**、**及**、**ヒ**、**氣**、**管**、**支**、**加**、**テ**、**各**、**ル**、**ヲ**、**患**、**ス**、**ル**、**症**、**候**、**ハ**、**多**、、**存**、**ス**、**ル**、**症**
○**鼻**、**腔**、**加**、**テ**、**各**、**ル**、**アリ**、**テ**、**鼻**、**粘**、**膜**、**充**、**血**、**噴**、**嚏**、**等**
○**腔**、**壅**、**塞**、**ス**、**必**、**増**、**ス**、**ル**、**症**、**候**

○**前**、**額**、**窩**、**ノ**、**侵**、**サ**、**ル**、**為**、**シ**、**眉**、**間**、**部**、**ニ**、**疼**、**痛**、**ヲ**、**患**、**ス**
○**ハ**、**モ**、**ル**、**氏**、**窩**、**ノ**、**侵**、**サ**、**ル**、**為**、**シ**、**上**、**齒**、**列**、**上**、**ノ**、**上**、**顎**、**骨**
○**部**、**ニ**、**疼**、**痛**、**ヲ**、**患**、**ス**
○**改**、**氏**、**管**、**ニ**、**各**、**ル**、**病**、**波**、**及**、**ス**、**ル**、**由**、**リ**、**耳**、**鳴**、**重**、**聽**、**及**
○**耳**、**内**、**ニ**、**於**、**テ**、**糖**、**蜜**、**性**、**疼**、**痛**、**ヲ**、**患**、**ス**

恢復期久シキ
ニ及ルモシ

其他老病ノ侵食ヲシテ、結膜、淚管、及スルコトアリ

且ツ咽頭加答兒アリテ、扁桃腺、腫脹ス

喉頭、氣管及ヒ氣管支加答兒アリ(インフルエ

ンザ性氣管支加答兒ニハ、痙攣性咳嗽ヲ為ス

是レトシテ、氣管及ヒ大ナル氣管支ノ侵サレ、ニ由

時トシテハ、肺炎、肋膜炎、肺結核ヲ貽ス

四) 腸胃性インフルエンザ 稀有ナル症トシテ、主ト

シテ、嘔吐、腸胃痙攣ヲ呈ス(嘔吐(胆汁ヲ吐ス

食欲消失、胃圧、過敏、便秘、下痢等)

五) 癩麻質斯性インフルエンザ 背、脊骨、肢

節、疼痛殊ニ劇シキモノヲ云フ

経過 多クハ一週以内ニ其以上ニ及ラズ

診断 確診スルニ患者ノ鼻咽喉結膜若クハ咳

痰ヨリシテ細菌検査ヲ行ヒ或之ヲ鏡檢シ或

ハ血液ニ於テ寒天培養ニハ、難培養ス

治療法 豫防法トシテ患者ヲ隔離シ患者

ノ使用シタル物ヲ消毒スルコト

本病ニハ、特効薬及ヒ豫防薬ナラズ、瘧疾ニ

對症的ニシテ有熱時ハ、就寝セシメ、輕易ナ

ル送養ハ、物ヲ與フニ、患者ヲ慰養ス

傳染症期性疼痛ニ向テハ、アスピリン

ヲ用テ、インフルエンザニシテ、インフルエンザノ疼痛

及咳嗽刺激ニハ、麻酔薬ヲ用フ

○ 本病ノ感得セシムル者多ク、其ヲ預防法難キニ

○ 百日咳

- 鑑別疾患
- (一) 夜咳
- (二) 枯嗽布
- (三) 偽性枯嗽布
- (四) 声門痙攣
- (五) 定期性喘息
- (六) 急性声門水腫
- (七) 喉頭眩暈
- (八) 氣管内異物
- (九) 氣管支腺腫大
- (十) 慢性咽喉炎

第十 百日咳 (疫咳)

△定義 喉頭ヲ侵シカ以傳染病ニシテ痙攣状咳嗽ハ其心ヲ来ス

△原因 病原未詳ナレバ傳染病タリトハ確實ニシテ其感深患者ト觸接スル由ル(直接ニ患者ト接スルモモウ同ラズル)由リ感深スルコトハ空氣中傳達)又介立者及世生活体ニ由リ感深スルコトアリ 一厄罹患者ハ免疫性ヲ得

病毒ハ喉腔中ニ含有セラル
流行ハ寒冷ノ候即冬者ニ多ク
常ニ殆ドヤ見ラ侵シ 虚弱ルル者、小兒白者、及腺病性ノ小兒ハ浸セシ易ク

△症候 潜伏期 約一週日

本病ノ經過ハ通常四、六、八乃至十二週ニシテ各期ノ持續時日ハ次ノ如シ

- 一 潜伏期 一週日
- 二 加害見期 一乃至三週日
- 三 痙攣期 四乃至六週日
- 四 減退期 三週日

○(一) 加害見期 鼻加害見、結膜充血、咽喉及喉頭加害見アリ 併ニ軽キ熱ヲ来アリテ 食欲不進 身体倦怠ヲ来ス

鼻咽頭、結膜ノ充血ハ漸次減退スルニ咳嗽頻數ニ次ルニ増劇シテ其心性ノ症状ヲ現ス

○(二) 痙攣期 本病ノ極期ニシテ痙攣性ノ咳嗽若シク若ス 其若シクヤ鴉鳴様咳嗽

吸氣ヲ其ノ之ニ次ニ發スル咳嗽ヲ既シテ
咳嗽ト咳嗽トノ間ニ吸氣ヲ拵ケ下ニ
十秒乃至二十秒以上ヲ經ルルハ箇中ノ
ニ深呼吸氣ヲ發ス 其後ハ終ニ引テ
功ニ據ル拵體疼ヲ咳出ス 此後屢吐ス
ルアリ

若レハ淺ニ歛而ケアノ一セツ是ニ頭筋脈
怒張シ兩便ハ從ヒ去ル 且ツ時ニ結膜及
氣管支等ハ出血ヲ示スアリ
發作ノ度數ハ廿四時間中ニ數回乃至數十
回ニ及ブ特ニ夜間ハ著明ニシテ其後ノ来
トスルヤ喉頭及氣管支部ニ於テ一經奇癢

感アリテ患見ニ發ル来熟シ豫知スルアリ

三減退期 發作稍々稀少ナリ咳嗽ハ癢
性ヲ失ヒ終ニ單純ノ喉頭及氣管支加答兒
ノコト存スルヲ稀初期ニ於ケンカ也

診斷 因有ノ症ニ性咳嗽吐結膜出
白血、兎 疑ハシキ中ハ舌腫子ヲ以テ試シ舌
ヲ壓下スルニ然ルハ咳嗽其後ハ現ス

豫後 三歳未滿ノハ見強ニ哺乳兒、虛弱
者、腺病家、肺病合併者、及ヒ若レ三十
ヲ超スル者ハ不良ナリ

療法 豫後法 速者隔離、咳痰
及ヒ患者使用スル品

葉劑ニテ採用せらるる。塩酸キニーネ、苦味草
タシニ酸キニーネ、オイニコシ、樟腦、アセチル、
フナセチン、ヒナフェリン、プロモモホルム、アリストロ
シリス。セドホリ特效薬ト看做ス。キモノ
故ニ待期的及ビ對症の療法ニ由リノ外ニ
室ハ空ニ氣ノ流通ヲ良クシ且チ録ノ免カ
ラトス。食餌ハ輕易ニシテ消化良キ物
輕症ハ殆ト服薬ヲ要ス、
加急見期ハ祛痰劑 又氣管ノ粘液ヲ
溶解スル目的ヲ以テアルカリ性緩液ヲ用フ
多量ノ粘液氣管支ニ蓄積シタル場合ハ
強ク吐劑ヲ要スルコトアリ

痙攣性咳嗽ハ麻酔劑ヲ用フ強ク採用
スルハ甚甚ス甚幾斯シ 其他硫酸アト
シ 抱合コウロウシ 阿片 モンシネ ナンセイシ
コドリン ブロム加里 ブロム苦達子ヲ用フ
其他ク口、ホム、エーテル ニシビシ油子ノ以テ
ヲ採用スル者アリ 又十カイン溶液ヲ
咽喉及喉頭ニ塗布スルハ一時效ヲ奏スルアリ

第十一 實扶埴里亞

定義 實布埴里亞菌ニ由リテ起スル急性傳染
病ニシテ粘膜(多クハ咽喉、初者ハ喉頭、氣
管支及鼻、皮膚)ニ炎症膜ヲ形成シ毒素
ノ吸收、内クテ中毒之症ヲ起ス

實夫至里亞

○實扶埴里亞菌
ニ限局スルニ拘ラス
全身症狀ヲ起スル
ハ實扶埴里亞菌
リシラ毒物ヲ生
シ其毒物ノ吸收
シテ中毒之症候ヲ

此疫スルヨリ
而テ實際本菌培
養ヨリシテ毒素
ヲ含ミ強シク
○本病ニ屬ス連

原因 实扶垓里バナルニ由リテ發スル傳染病
進入ハ扁桃腺ヲ最モ多クトシ鼻腔腔

状跡菌ノ混合
傳染ヲ来シ局
部ノ炎症ヲ増
悪スルノミナラズ性
該菌ノ深部ニ
侵入スル者ニ敗血

本病ノ傳染ハ患者ノ觸接ニ由ル 其他患者ノ
使用シタル衣類玩具ヨリ傳染シ 近距離
ニ於テハ空氣ヨリモ感染ス

症状ヲ發スルヨリ
其他葡萄球菌
菌ノ流行性感冒
菌或ハ肺炎球菌
混合傳染スル
アリ

本病ハ寒冷ノ氣候ニ發スルノ多ク(此年ノ冬ニ
咽頭炎ヲ發スル者多ク是ヲ病毒ニ感染シ易ク)
二歳乃至七歳ノ小兒ハ急性ノ易ク 咽頭炎ニ依アリ
殊ニ扁桃腺ノ肥大ナル者ハ侵シ易ク

解剖 本病ノ局部ニ纖維性渗出物ヲ產生シ
且ツ組織ニ壞死ヲ来ス特殊ノ炎症ニシテ渗出物ハ

格魯布ト实扶垓里

灰白色ノ義膜ヲ形成ス

義膜唯上皮ヲ被ハレ粘膜上ヨリテ容易ニ剝離ス

レラ**格魯布**ト云ヒ 之ニ基テ多少ノ深ク粘膜

組織ヲ浸淫スラ**实扶垓里**ト云フ

咽頭及扁桃腺ニハ**实扶垓里**性ノ炎症ヲ起ス

及喉頭ニ至ルニ炎症ニ及ニ及**鼻腔**ノ内腔上

皮ヲ以テ被ハル**部分**ニ於テハ**格魯布**性ノ病變

ヲ起ス

△症候

甲 咽頭实扶垓里亞

潜伏期ハ二日乃至七日ニシテ**熱**發及嚥下困難

凡テ不定ノ全身
炎症ヲ急發ス

ヲ以テ始メル 咽頭ヲ極ムルニ扁桃腺腫起潮紅シ

小兒病必其
咽頭を極る
要之若し之ヲ尋
閉之附ルハ其
ノ初期ヲ看過
スルコトアルベシ

白色斑點又ハ線状ヲ認ム後ニハ汚穢灰白色
被膜ヲ形成シ鏡子ヲ以テ之ヲ除去セシムルモ容
易ニ剝離ス咽頭ニ疼痛アリテ談話嚥下
及頸首ノ運動ヨリテ増劇ス口腔ノ粘液分
泌旺盛シ声音ハ咽頭腫脹為ニ變調ス(咽
頭ガ性言語)下顎前後部ヲ極ス咽頭下淋
巴腺腫脹ス
義膜數日ニテ全扁桃腺面ヲ覆ヒ尚進ミテ懸
雍垂口蓋ヨリ等々及ヒ更ニ扁桃腺或ハ喉頭ヲ
侵スコトアリ

△經過 一週乃至二週
○合併症及貽後病 一呼吸器 氣道上部

肺臟及肋膜ノ實扶地里ニ侵サントアリ。氣
管支肺々ハ本病ニ最モ多ク死者ノ五十%見ル
(二)循環器 皮膚ハ蒼白色ヲ呈シ重症ニ於
テハチアノイゼラ現象 脈搏ハ微弱ニシテ往々
不心ニ向キ多クハ細數 時トシテハ太ク且ハ緩慢
ナリアリ 血液中白血球増加ス
(三)消化器 咽頭加着見(實扶地里病變
以外)時トシテハ扁桃腺化膿ヲ見ル
(四)実扶地里性麻痺 重症ノ經ニ中
往々見ル也ニテ左ノ二種ノ麻痺アリ
(甲)早期麻痺 扁桃内ノ侵サレニ由リテ甚ス
ルモノナリシニトシテ麻痺セラルハ口蓋帆ニシテ

舌片ハ鼻調ラ帯ニ 喉体ラ嚙下スルハ鼻腔
逆流ス

(一) 鼻扶地 里後麻痺 若病ハ余三週乃至

五週以好ニ起ル 口唇麻痺ニ或ハ咽喉

眼筋 顔面及 樽隔膜ノ侵サレ、コアリ

其他四肢ノ運動失調及知覚障礙ヲ来ス

(五) 心臟麻痺 病初期(殊ニ重症ノ場

合)ニ甚シ(心院ノ早期麻痺)或ハ末期(心

週着クハ才四週)ニ甚ク(心院ノ晚期麻痺)

而テ好者ハ前者ヨリモ屢存ス

(六) 鼻扶地 里性腎病 蛋白尿ヲ見ル(蛋

白尿ノ有無期ニ視ル、他ノ傳染病ニ於ケルガ

如シセド恢復期ニ至リテ腎病ヲ著スルコトアリ

乙 鼻腔實扶地里亞

咽喉實扶地里亞ニ続發スルコトヲ鼻粘膜

腫起シ 鼻室ニ分泌出物ハ為ニ閉塞シ 鼻

腔盛シ 初メ粘液性ナレバ 後ハ白性或ハ

腐敗性ノ鼻汁ヲ流世シ 鼻下ノ皮膚ハ其

浸染ヲ蒙リ 刺戟ヲ受テ 潮紅腫脹ス 声

音ハ鼻調トナリ 鼻室ヲ放テ 呼吸ヲ吸ス

丙 咽喉實扶地里亞

多クハ咽喉實扶地里亞ニ続發ス

初メハ善阻喉頭如唇兒ノ症候ヲ呈シ 舌音

嘶嘎シ 輕度ハ咳嗽ヲ呈スルモ 漸次喉頭狹

喉頭狭窄

窄之症候多々
咳嗽ハ犬ノ吠声カ如クニシテ(犬吠性咳嗽)本病ニ固有ナルヲ以テ之ヲ格曹布性咳嗽ト稱ス
吸氣ハ延長シテ鋸齒狀又ハ吹笛様ノ雜音ヲ呈ス
呼吸困難アリテ呼吸補助器ニ依作シ胸部下部及上腹部ニ吸氣系の陥没アリテ患兒ハ平位ヲ好ム
皮声ハチアノトセラシテ容物不穩トナリ時々呼吸困難ノ甚ルアリ
次ノ炭酸蓄積ニ酸素貯蓄シテ昏瞶ニ陥リ容息甚ル熄ニ呼吸淺表トナリ昏睡ヲ以テ起ル
△診断 熱甚、咽頭痛、咽頭、氣腫ノ存在

○鑑別疾患
一假性格魯布

下顎隅、淋巴腺、腫大、舌音咽嚥、格曹布性咳嗽アリハ多ク其診斷容易トシテ性ニ義腫、非實性性腫トシテ以テ也病ヲ確診スルニハ細菌的検査ヲ要ス
△療法 豫防法 患者ヲ隔離シ家庭又患兒ノ便物トモト物カ消毒ス
△治療 目的ハ第一ニ病系ヲ分ルニ於テ撲滅セシメ(局所療法)第二ニ作内、道入シルニ病毒ヲ及對毒ヲ以テ中絶ス(對毒性一汎療法)
△局所療法 トシテハ消毒薬、腐蝕薬及義膜溶解薬ヲ冷布合嗽スルニ吹入ス
△薬劑 石炭酸、多揚酸、昇汞(ミカド酸)

直に胸骨、脇心、鎖骨、大腸、外側、膝、
或は、深き、膝窩、窩中、に注射して、(幼者、は、
肩胛、下、部、に、注射、する、可、し) 注射、部、に、
注射、液、を、拭、取、る、事、を、要、す、

注射器 五、〇乃至一〇、〇立方仙達ノ皮、に、
注射、す、ハ、ア、ロ、シ、シ、氏、注射、器、を、用、じ、使、し、
あ、る、所、に、注、入、し、同、内、に、及、び、注射、針、を、抜、き、洗、淨、
消毒、を、以、て、二、三、倍、ノ、石、炭、酸、を、う、す、以、て、更、之、
を、洗、淨、し、而、し、注射、液、を、吸、引、す、

白。糖。用。量。は、痲疹ノ輕重、及、多、數、を、以、
て、増、減、す、べし
注射、液、は、注射、部、に、は、ま、さ、る、ル、コ、ロ、に、
注射、し、

局、部、に、按摩、を、行、は、す、ラ、シ、テ、分、然、ノ、
副。作。用。は、注射、後、に、こ、の、因、り、痲疹、
ハ、善、惡、疹、様、發、疹、筋、及、關節、痛、蛋、白、尿、並、
血、尿、ヲ、現、ハ、ス、ト、アリ、サ、レ、ド、之、ガ、為、ニ、毫、モ、危、險、
ヲ、招、ク、モノ、ニ、ア、ラ、ズ、

三) 對症、的、療、法 食、餌、ハ、流、動、性、物、殊、ニ、牛、
乳、ヲ、可、ト、ス、

心、臟、衰、弱、ニ、ハ、イ、チ、キ、タ、ク、ス、酒、類、ヲ、用、フ、
實、扶、地、理、性、麻、痺、ニ、對、シ、テ、硝、酸、ス、ト、リ、キ、ニ
不、用、に、感、傳、電、氣、及、平、流、電、氣、療、法、ヲ、
施、ス、べし
喉、頭、實、扶、地、理、性、石、灰、水、ヲ、吸、入、セ、シ、ム
未、立、里、臣

喉頭狭窄症ある場合に吐劇著なる外科
的手術ヲ行フ(吐劇著なるは運命ニ由
リテ氣腫ヲ嚔生シテ窒息ノ危険ヲ輕減セ
ルニ由リ)

第十三 麻拉里亞

△定義 赤血球内ニ寄生スル胞子虫ニ由リテ發

生スル多形性傳染病ニシテ其症候ノ發化性ニ

シ特有トス而テキリネハ本病ノ特效藥ナリ

△原因 麻拉里亞胞子虫(旧名麻拉里亞)ニ

ラスモザラム)ハ赤血球中ニニルガニ其ス

○マラリア胞子虫ハ赤血球ニ侵入シ初メハ小ナシニ
漸ク發育増大シ赤血球ノ半数若シハ全數

- 鑑別疾患
- 一敗血膿毒症
- 二結核(消耗熱)
- 三腸室積斯
- 四急性内膜炎
- 五黃熱
- 六熱性腸胃症
- 七回歸熱
- 八粟粒結核

九マラリア病

シ先實ニ赤血球ヲ以テ白シシ學長ラニ供シヘモラトシ
テ破壊シテメラトシシ色トシテ生じ之ヲ白体内ニ含

有スルニ其成熟スル中ハ分裂シテ胞子ヲ形成ス

此胞子ハ古キ赤血球ヲ離レテ新シキ赤血球ニ

ヘリテ其發育スルモノトス(母性發育)其他成長

セル室の生虫ハ一類ハ雌雄ノ兩性ニ分レ大ナル生

殖細胞トナル此生殖細胞ハ球形ヲ有スル雌雄

ニ由リテシロクマシシ排列状態ニ依リテ其悪性

マラリアニ依リテモハ半月状態ニ依ラズテ生殖

球トシテ此生殖球ハ人体内ニ散ラ成熟スル

ナシトモハアノ左トシスル故ノマラリア患者ヨ

リ血液ト共ニ此生殖球ヲ吸ハスルハ其胃中ニ

於テ成熟シテ大小二種ノ生殖球ニ化シ其交接
ニ由リテ胞子ヲ形成ス
本病ハ蚊ノ螫刺ノ内ヲ其スルノミナズニ患者ハ
血液ヲ他者ニ注入スルモ亦其セシムルヲ好
本病ハ蚊ノ咬ニ自ニ適当ナル泥沼、河口、泉濕
志地方ニ流行スルヲ泥沼熱ト名稱アリ
温帯ニ於テハ春秋ニ多ク其セ 熱帯ニ於テハ
降雨期ニ多ク其セ
夜間窓外ニ臥シ或ハ窓ヲ開キテ蚊ハ蚊
ニ螫セ易ク其ヲ傳播ノ危険アリ
麻拉里亞地方ニ於テモ高樓者ノ丘上ニ
飛布スルハ蚊ハ少ク且遠クニテ飛行セザラ

ゴルキー氏區別

ツテ危険ナシ
○病徴ノ異ナルニ長ニテ室ヲ生スル胞子其ニ亦
差異アリゴルキー氏ハ一慢性マナリア 隔日熱、
並ニ四日熱、フランスモザウムノ三種ニ區別シタリ

△症候 一般症候

○一熱ハ麻拉里亞ノ緊要ナル症候ニテ麻拉里
亞ニ感染シタルアノフェーレスノ人々ヲ螫刺スルハ麻
拉里亞ノフランスモザウムノ人々ノ血液中ニ一リテ一定
ノ増殖ヲナス此期間ハ即チ潜伏期ニシテ其期
日ハ三日乃至二十日ナリ
フランスモザウムノ人体内ニ於テ増殖シテ一定數ニ
達シタルハ熱發作ヲ来ス其若ルハ麻拉里亞

一潜伏期

胞子ノ形成ノ場合ニ現レ其新血球ニシテ
育シテ更ニ再度胞子ヲ形成スルニシテ
過シ此再度ノ胞子形成ノ場合ニ示シ
ルヲ毒ス

麻拉里亞ノラスモガウノ其種類ノ異ナルニ
ニ成熟時間ニ長短アリ成熟時間ノ二十四時
間ナルモノ毎日ニ十八時間ナルモノ隔日七十二
時間ナルモノ三日ノ間歇ヲ以テ熱ノ度ハ及
覆ス(毎日熱、隔日熱、四日熱)若シ各種ノ
胞子中ニ同時ニ血液ニ存在シテ交互ニ其
作用ヲ逞クスルキハ其熱度ノ期ハ複雑トシ
熱度ハ悪寒ヲ以テ始マリ次ニ熱汗ハ

(二) 寒戰期

(三) 灼熱期

(四) 發汗期

(五) 免熱期

區別

初ニ体内ノ温度ノ急ニ上昇スルニ由リ末梢動脈
溢ク收縮シ皮膚ノ血流量減少スルヲ以テ皮膚厥冷シ
患者溢ク寒戰ス(寒戰期)其持續一二時間
次ニ内部ノ温度極ニ達スルニ由リ末梢動脈ニ多量ノ
血液流注シ皮膚温暖トナリ患者灼熱ヲ感ズ(灼
熱期)其持續三乃至四時間以上
更ニ内部ノ温度下降スルニ由リ末梢動脈擴張シテ
溢ク發汗ス(發汗期)其持續二乃至四時間
次ニ免熱期ニ移行ス而シテ熱度作ノ全經
過ハ六乃至十時間ナリトス
熱度作ノ時期ノ異ニ從ヒテ間歇熱ヲ區別シテ
甲 日發熱

乙 隔日熱
丙 四日熱

等トナス

予ニノ發熱ハ予一ノ發熱ト同時刻ニ来スルシテ僅ニ早
ク或ハ遲ク發スル一アケ之ヲ發作ノ前進又ハ後退
ト云フ

二日熱キテ毎日一回発熱アルテ一日間歇アルヲ隔
日重複四日熱ト云ヒ 一日ニ二回発熱アルヲ同

日重複日發熱ト云フ

(一)脾腫 予ニノ緊要ナル症候ニテ本病ハ殆ド
常に缺ムスル一也 初期ハ唯發熱時ニ腫大

シ免熱時ニ縮小スル凡ハ此ニ由リ免熱時ニ縮小セバ
(三)貧血及黑血症 本病ノ貧血ニ至ル

赤白血球減少及血色萎減少ヲ著スルマニリテ
プランスミゲラムノ赤白血球ヲ喰食スル而テ之ヲ補フ為
骨髓ノ白色素ニ至リテ白血球ヲ循環系ニ輸
ルヲ以テス

(四)黒血症 トハメラニシハ血液中之成分を病
シテマツリテ固有セル成分ニハマツリテ

スモザラムノ為ニ赤白血球ノモクはゞシヨリ他生シタ
モノニシテ血液中之成分を病シ 脾、骨髓、脳髓

等ノセシテ流毒、沈着ス

(五)皮膚 若シ中ニ皮膚ハ知覚の敏トナリ

アリ且急性行疹又ハ慢性麻疹ヲ著ス

(六)尿 尿ノ分量増加ス 従ヒマツリテ

悪寒期ニ尿
量増加ス

及若行期ニハ
 房ヲ濃ク
 高ニ居テ
 口ニ他物ハ
 極下ニ増カシ
 下極下ニ増カ
 ス

多尿症ヲ考スルニアリ

六) 神経症状 即チ頭痛、袖痛、麻痺

瘧疾等ヲ考スルニ或ハ柔弱ノ中經及分泌中經

ノ侵染ニノリアリ (マウリノ病ニハ中經系統ヲ

侵スルニシテモ病系ノ中ニアリテ時々毒ヲ

毒出シテ毒ノ毒ノ血中ニ毒ヲ起ラ初感ス

ニ因リテ若クハ現スルニトス故ニマウリノ毒ハ毒

毒ニ對スル中經性ト云ヒ 其他モ病種ト

中ニハ若クハ中經病後ヲ考スルニアリ

七) 腸胃病 並ニ呼吸及循環器ノ症候

ハ食慾不進、呼吸、胃氣、嘔吐、胃痛、下

痢、黃疸等ノ腸胃病アリ

(2) 毒病又ハ毒病ノ病後アリテ 乾咳又ハ乾性喘

息ヲ考ス

(3) 脈搏ハ惡寒期ニハ小ニシテ 硬キモノ熱期及若

汗期ニハ大ニシテ軟キ時々重複ス

心音ハ強ク多ク且性質純ニ云フ可ク

各自症候

本病ヲ其原因ノ異ニテカク區別ス

甲 三日熱及四日熱。フランスモザムニ

由リテ考スル熱

ニトシテ温帯地方ニ流行シ夏季及秋季ノ若ク

ルニ熱帯ノ或地方及亞熱帯地方ニ於テ寒冷

ノ後ニ考スルニアリ

固有ハ熱者也ヲ現シ熱性ノ經ニテ有クナクキ

ニハ熱ニ内リテ治スルモノトス

一四日熱 中夜ハ多量汗ヲ有セシ

二單純性四日熱 唯一生代ノ家生也由リ

テ多スルモノニシテ亦ノ熱性日ト次ノ熱性日トノ間ニ

其也ヤサレ日二日アリ

三異日重複四日熱 二十四時日ノ熱二月ノ

有ラハテ二生代ノ家生也ノ家生也ニシテ二日

向流テ表レシテ一日間歇ス

四三複四日熱 二十四時日ノ熱音月ノ有ラハテ

三生代ノ家生也ノ家生也ノ日也又熱ヲ多ス

二隔日熱 温帯地方ノ於ケル間歇熱中ノ最も多シ

(一)單純隔日熱 一生代家生也ノ最も多シニ

内ノ隔日ニ熱多スルモノ

(二)異日重複隔日熱 二生代家生也ノ最も多シ

ニカ内ノ毎日熱多スルモノニシテ比較的ニ多ク多ス

(三)混合熱 四日熱ニ隔日熱ヲ有ラハテ同時

ニ傳染シタル場合ニ於テノ熱型ヲ表スル

乙 惡性淋症ニ由ルマラズモチウム

即チ半月状ニ内リテ發見スル熱

主トシテ熱帯及亞熱帯地方ニ於テ猖獗ノ熱ヲ

呈シ温帯ニ於テモ亦盛夏及秋季ノ流行

スルアリ故ニ以テ本邦ノ熱者ニ之ヲ夏秋熱ト稱ス

△症狀 輕症マラズニ同ニキモ之ニ比シバ危

稀ニ移ル者アリ及重症アリアリ
ラノ混令他原ヲ来スアリ

丁 假面麻拉里亞

熱モリ微弱ナカ(0.5乃至1.0度)或ハ全ク
熱コレテ他病候ノミナシトシテ

本病比較的移者コレテ熱帯地方ナリ
常地方ニ多シ日本ニ於テ稀ク之ヲ見ユ

症候

正規ハ時ニ限ルニ於テ其病スル
腺腫、神経痛(氣中ニ又神經痛ニ上四等)

頭痛、内臓非神経痛、痲痺、眩暈等

診断

稀ニシテ患者ノ既往病ヲ問ニ熱帯
ニテ接シ 腰腕ヲ拘屈シ 血中ニマ
リアリ

モケラムヲ様ス

戊 慢性麻拉里亞 並ニ

麻拉里亞惡液質

輕症ニ強ク重症マシクハ慢性ニ移リス

慢性ハ多クハ持続性熱其アルモ熱型不規則

ナリ赤血球ノ破壊セシムルニ因リ血中ニ起ス

脾ハ著ク腫大シ 肝モ亦肥大ス

内トシテ種々ノ著症アリ 皮膚ハ紅

白、著ク乾著クメウシシ、沈着ニヨリテ著ク

濁蒼白色ヲ呈ス

且ツ慢性腸胃ノ各病、慢性氣管炎又加テ

並ニ慢性腎炎ヲ呈ス

療法

特效薬ハキニートナリ

皮膚に及ぶ箇に蚊ノ侵入セザルヤウニ紗或ハ金網
 ノ如キ物ヲ覆クツルニ宜シハ口ハ亦好ニ筒ノ金網
 製自効閉鎖器ヲ設ケ外至時ハミヤウ服ル
 是等ノ手袋等ヲ用ヒ復宜ニ蚊帳ヲ用スル
 抑テ毎夜里地プラスモテウムノ若青ヲ防止
 スルニシテ向欲極患者ニ其發症ヲ防ズルニ
 三時ニ用量一・〇ヲ與フベシ
 惡性マラリアニ其他他種ノ場合ニ大量
 (一・〇以上)ノキニートヲ與フベシ(サレド既ニ血
 液検査上テ函確定シテ熱地種ヲ待ツカ
 如キ時ハ病後ヲ許サレハ有熱時ニ之ヲ用

尚危險ニシテ危ラキ中ハ肺臓内ニ侵ルベシ
 キニートハ十日乃至十日ノ用量ヲ與フ(此ハ好半
 量(〇・五)ヲ尚數回間服シタル也)シ
 半月状体ニ其大量ヲ持続シテ用フルヲ為ス
 キニートヲ内服シ難キ場合ニ皮下注射、肺臓
 注射或ハ灌腸ヲ行フベシ又肛門坐薬ホトシテ用ヒ
 或ハ蚊那皮ヲ用フルベシ
 慢性症ニキニートハ砒石若クハ鐵劑ヲ伍シテ用
 フルベシ
 アニチンノシ、シンコニチンハキニートノ如ク效ナシ
 阿トシテハ所見ヲ與フ
 其ノ服用法ハ稀塩酸ヲ飲マシ其後解ラザル
 〇再尋也

第十三 再帰熱

△定義 螺旋菌ニ由リテ起リ固有の熱型ヲ呈スル急性傳染病ナリ

△原因 オーベルマイエ氏ニ發見シタルピロヘトニ名再帰熱云ビルルレシ

該菌ハ細長ク螺旋菌ニテ有熱期ニハ血中ニ現シ解熱ト共ニ消失ス血液ヲ顯微鏡トニ檢スニ視野中ニ於テ本菌ヲ治後ニ運動スルヲ見ル

本菌死滅原因ハ詳ナク又再發ノ理由モ亦明ナラズ本病ノ傳染ハ患者トノ交通ニ由リ稀ニハ介立者ニ由リテ傳染シ或ハ往々患者ノ使用シタル衣服ニ手巾、臥褥等ノ媒介ナラリ

本病ハ多ク民病ニテ貧民、穢多ク西國ニ多ク本賃宿、囚獄等ノ本病流行ノ其起點タルナリ

本菌ハ鼻ニ於テ久シク生存スルヲ食菌血液ニ感染媒介物トシテ南京虫、虱、蚤、蚊等ノ患者ノ血液ヲ他ノ健者ニ移スニ由リテ本病ヲ感染セシムルカ如シ

△解剖 皮膚及内臓ニ黄疸ヲ見ルナリ(所謂胆液性空變土)

心臓ニ纖維ハ顆粒狀濁濁及脂肪變性ヲ呈シ、脾臓及肝臓ハ肥大ス殊ニ特有スハマルビキ氏小体増大シテ屢々壞死又ハ膿瘍ヲ呈スルナリ稀ニ腫脹若クハ化膿ノ為ニ脾臓ハ破裂スルナリ往々骨髓ニ於テモ脾臓如クニ軟化竈ヲ呈ス

有熱期之覺レシ患者、血液中之再帰熱スルレシ

△**症候及經過** 潜伏期 五日乃至七日

如病急ニ患寒戰慄ヲ以テ發熱シ、四十度若ク其以上ニ達ス、而テ此際嘔吐、血、頭痛、四肢及背部、疼痛アリ、他ノ急性病ニ於テカカシ

軀幹及四肢ニ疼痛アリ殊ニ腓腸筋ニ強ク輕ク之ヲ按摩スルモ其痛ヲ増ス

顔貌憔悴シ皮膚ハ蒼白色ヲ呈ス神識ハ熱高キニ拘テ多クハ明瞭ナリ其他熱ニ因スル症候即チ口渇、舌苔及食思缺乏等アリ尿ニ熱性尿ノ性質ヲ現シ濃厚ナリニテ蛋白質ヲ含有ス

脈搏ハ頻數ニシテ百二十乃至百四十ノ鼻下ニ呼吸數モ

モ亦増加シテ一分間三十二乃至

脾臟ハ著シク腫大シ肝臟モ亦多少肥大ス、而テ血中

ニ四倍熱スルレシヲ見ル

熱ハ五日乃至七日間稽留シタル後多量ノ發汗ヲ以テ

分利ス、体温ハ常度以下ニ降シ脈數減少シ顔

貌佳良トナリ脾臟縮小シ、血中ノ再帰熱スルレシ

消失ス、而テ四日乃至十四日ノ後再ヒ前同ノ如ク患寒戰慄

スルテ發熱ス、其症候ハ亦一更ノ如キモ通常其経過短ク

多クハ三日乃至五日間持續シタル後發汗ヲ以テ分利ス

更ニ亦三回乃至四回ノ熱發熱ヲ及覆ス、而テ此場

合ニ於テハ間歇期愈永ク發作ハ持續愈短ク且

亦三發作以テハ其熱著カラス

再帰

胆汁性

△経過 平均四五週間、本病多ク痊愈シ其死亡數三乃至五%ニ至ギス
○再帰熱、一程胆汁性再帰熱(胆汁性乃至斐土)ト稱スルモアリ本病、高热、黄疸及強キ四肢疼痛ヲ發シ、亦經系ノ症候顯著ニシテ既ニ發病後四日ニ於テ憔悴昏憊ヲ現シ其症狀重症腸管攣攣、腹ノ著キ衰弱、他腸胃症候アリ脾臟及肝臟、著ク腫大ス時トシテハ皮膚紅斑及荨麻疹ヲ發スルコトアリ血液崩壊スルコト、黃疸ヲ發スルコトナリ、出血性素少シク現シ皮膚及粘膜ノ出血ヲ來ス
本病ノ経過ハ多ク五日乃至十日ニシテ死亡數

六十乃至七十%ニ達スト云フ

△診断 血液ヲ検査シテ再帰熱をリレンヲ証明スルヲ要ス

本病ヲ認明シ得ルニ其診斷確實トモ尚臨床的症候ヲモ参照スベシ其主ニ症候、脾臟急速且顯著ナル腫大、固有ニ熱型、肋肉ノ知覺ニ敏ナリ

△豫後 良セド胆汁性ハ不良シ

△療法 患者ヲ隔離シテ治療法ヲ行フ

療法トシテハ待期的及對症的治療ヲ行フニ至碓酸又ハ甘素ヲ服用スルモノモ其著效ナキカヤシ

○ 黄熱ノ定義

西半球、熱帯地方ニ流行スル急性傳染病ニシテ臨床的
熱型、衰弱、黄疸、蛋白尿、吐血並ニ他部、出血ヲ現シ
解剖上肝臓及腎臓、實質的變質及毛細血管脂
肪變生ヲ發ス

○ デング熱ノ定義

本病ハ急性熱性傳染病ニシテ熱、関節及筋肉疼痛
痛並ニ多樣ハ疹ヲ生ジ、温帯及熱帯地方ニ發ス

第十四 赤痢

△ 定義

赤痢ハ赤痢菌ニ因ル急性傳染病ニシテ大

腸ヲ侵シ腹痛、裏急後重及粘液血便ヲ發スモノ也

△ 原因

赤痢菌ハ東京ニ於テ志賀潔ヤ比律賓ニ

於テフレキシナキ獨逸ニ於テバレルセキノ發見スル也

ナリ

○ 傳染徑路

病毒、糞便中ニ存シ種ノ徑路ニ依

リテ人作内ニ入ル

汚物ニ群集スル蠅ノ病毒ヲ飲食物ニ運搬スルハ

疑ナキ事實ニシテ村落、於テハ食物、流行ハ之ニ

因ルモノ多シ廁圍及井戸ハ造構不完全ニシテ

汚物井中ニ混入シ或ハ汚染シタル衣類等ヲ井

ノ赤痢

○表ノ辨

戸端ニテ洗濯スルニ由リテ本病ノ傳染ヲ来シ或ハ
河上ニ於テ汚物ヲ投棄若クハ洗濯スル時ハ下流
ニ於テ之ヲ飲用スルニ多ク數ノ患者ヲ出スコトアリ
側圍ヲ出デタル際ハ汚穢シクハ拭ラハテ手ヲ
拭フニヨリ稀ニ患者ヲ患者ニ使田シタル灌腸器
檢温器等ヲ後ニ消毒スルコトヲ健康者ニ使田
シタルニヨリテ傳染ヲ来スコトアリ 其他患者ニ接
近スル者ハ往々ノ子指ノ傳染消毒ノ不充分ナルハ
ニ傳染ヲ来ス

本病ハ打傷ニ於テ鼻濕ノ地ニ多シ
本病ノ流行ハ多クハ五月迄ニ好マシ九月
迄ニ至リテ是モ猖獗ヲ極メ十一月ニ至リテ減衰ス

一度本病ニ罹ルモ免疫性ヲ獲ルコトアリ

解剖

解剖的變化ハ主トシテ大腸ニ限局シ殊
ニ直腸ハ其變化最モ著シク上部ニ進カニ此
テ粥ク其交ニ減ス(サレド其病變ノハラヒモ此辨
ヲ起シテ小腸ニ波及スルコト稀ナリ)
粘膜ハ初メニ充血覺ラヌ腫脹充血シ所々ニ溢
血ヲ著ス 其次ニ疝ハ鼻モ破綻ノ頂上ニ於テ盛
ナリ濾胞ハ腫脹シ次テ潰瘍ヲ著ス粘膜ニ於テ上皮
ノ壞死ヲ著シ其部ノ剝離スルニ由リテ不正形ノ潰瘍ヲ
形成シ巨ニ融合スルコトアリ
大腸ノ潰瘍久シク治癒ヤズシラ慢性赤痢ニ移行スル
コト潰瘍治癒スルハ瘢痕ヲ形成スルコト腸ノ狭窄ヲ貽ス

症候 潜伏期二日乃至八日あり

血ノ數回下痢し熱甚多ク人々全身症候アリ漸次排便時三痛ヲ覺シ重急後重及粘液血便ヲ泄ス而シテ便通ハ頻數ニシテ二十四時間内ニ數行乃至數十行以上ニ達ス

赤痢便ハ其ノ成分ニ粘液、血液、若クハ膿汁中ノ何レカノ偏勝スル也或ハ其混合ノ状態外觀並ニ粘状ニ由リテ(一)粘液便(二)血便(三)膿便(四)粘液血便(五)膿性粘液血便(六)肉汁様便(七)壊疽性便(八)膿様便(九)石アリ又便ニ硝子様ノ粘液塊ヲ混ズルコトアリ医学家之ヲ西穀禾或ハ蛙卵ニ比セリ

赤痢及白痢

赤痢便ニシテ血液ヲ混ズ或ハ血液ヨリ成ルル之ヲ赤痢ト稱ス 白痢ヲ混ズ粘液若クハ膿ヨリ成ルル之ヲ白痢ト稱ス

便數ハ多キニ拘テ一便ノ便量ハ僅少ニシテ年乃至一良匙ニ過キス者便ハ屢糞臭ヲ失ヒ時トシテハ粘液臭ヲ放ツル 壞疽性赤痢ハ甚キニ糞臭ヲ放ツ便ノ反應ニ亞菌加里性若クハ中性ニテ頗多量ノ蛋白質ヲ含有シ 便通前ノ腹部ノ雷鳴及疝痛様疼痛ヲ覺シ次ニ強弱トシテ便意空室迫即チ重急後重ヲ感ス 肝門附近ハ刺戟ノ為ニ潮紅若クハ紅腫ヲ呈シ往々裏急後重ノ為ニ腸取ヲ著ス其他肝門括約筋ノ麻痺

痔ヲ来シ肛門開放シ直腸ノ内容物ノ絶エズ漏
出スルコトアリ

腹部ノ病進ニ至リテ腸管ノ弛緩シ九腸骨窩於テ頑固ニ
圧痛性索状物ヲ觸知ス

體温 大腸ノ弛緩セシキハ通常極ニ高カラザレ
凡レ回腸ノ下段ノ侵セタリキ 所謂弛緩性腸炎ノ様態
状ヲ呈シ高熱ヲ莫シ胞腫ヲ起ス 而シテ此場合
ニ寒急後重等カラス 便數少クシテ便量多ク
便ニ稀ニ付ニシテ粘液及血液ヲ混スルコト少シ(寒
性腸炎毒痢)

經過 輕症ハ一週日ヲ出ラズシテ治スルモ重症
ハ一箇月以上ニ亙ルコトアリ

診斷 赤痢便ノ性状(便ニ粘液血液若クハ膿
汁ヲ含ミ)重急後重赤痢様疼痛腹痛 腹部
雷鳴 九腸骨窩ノ圧痛及腫脹等ニ注意スル
赤痢ノ細菌學的診斷ハ困難ニシテ今日ニ於テ
ハ尚臨床的性状ニ依リテ行ハルコト

本病ハ後述ノ如ク疾病ニ大腸カ各兒(直
腸)腫脹ニ直腸徵毒等アリ

豫後 壞疽性、急性、慢性、小兒、老人、不良
我國ノ流行性赤痢ノ死亡數ハ十六五乃至三二%

豫防法 流行時ニ於テ便アリモノハ赤痢ト看做
シテ之ヲ隔離スル 糞便ハ石灰乳ヲ以テ消毒ス
患者ノ使用シタル襪巾及衣類等ニ十分消毒

其他鑑別疾患
四 直腸痲疾
五 痔
六 水銀中毒
七 日本住血吸虫

流行時ニ於テ便アリモノハ赤痢ト看做
シテ之ヲ隔離スル 糞便ハ石灰乳ヲ以テ消毒ス
患者ノ使用シタル襪巾及衣類等ニ十分消毒

患者ノ使用シタル襪巾及衣類等ニ十分消毒

患者ノ使用シタル襪巾及衣類等ニ十分消毒

毒スレ

流行時ニ暴飲ニ食リ慎ミ寢冷ラ防ギ一
旦老沸ヲ徑タシモノニアザレバ飲食ノ料ニ供セザルヤ
ウニシ且食物ニ攪ル留ルヲ防グニ

療法

食餌及理學的療法 固形物ノ廢シ
專ラ流動性食物ヲ與フニ信物トシテハ粥汁
葛湯、水飴、スト、牛乳、生卵、因榨汁ヲ
用フ、冷却シタル食物ハ害アリラハ適宜ニ温ム
ラ要ス

飲料

トシテハ粘滑性飲料、他、大麥煎、塩酸
若クハ枸橼酸、リモネード等ヲ與フ
腹熱ニラフンネシラハ鹽ニ或ハプリスニツキ温巻

法ヲ行ヒ下腹部殊ニ九腸骨高ニ在飯、サ弱弱
塩等ヲ温クシテ温カシ

患者ノ就褥要路ニ必要ニテ及的褥中ニ便
器ヲ用フニ

藥劑的療法

下部

モ病初期ニ甘素若
クハ苳比麻子油ヲ與フ(甘素ハ下部トシテ效アリトナラ
ズ腸内ニ於テ食塩、ルハヨリテ昇示ラ形成シ腸
ヲ消毒ストシテ了後ニ高致ヲ奏ス)

收斂劑

吐根、板桐根皮、じバルバ皮、柘牛兒
黃、蓮、コシ、ボ根子用ス

砒素

次硝酸砒素(三、〇乃至六、〇の一日三回分
服)サリチン酸砒素(二、五乃至一、〇の

上一日三回) オルフォール、ゴフマール

タンニン酸、四月に害スルヲ以テタンニゲシ、リシナルビ

シ(用量者一日三四瓦) ガロブラール(一日量三、四

乃云云) 子ノ製劑ヲ用フ

三) 制菌劑 往々ナクテ、ガロルルヲ用フ

四) 痲痺劑 腹痛、裏急後重ヲ制致シ、此状は

キ場合ニハ、阿片ヲ用フ

五) 灌腸藥液 多シ、酸及硝酸銀液ヲ

生理的食塩水若クハ一%重曹水(微温ク保シ

メシモ) ヲ以テ腸ヲ洗滌スルモ患者速快ヲ感ス

對症の療法 裏急後重、肛門温覺法、坐浴

坐藥(コカシ、阿片、モルヒネ、莖苔等) 浣腸ヲ行フ

裏急後重ニ
對シテハ浣腸ハ激
務ニ或ハゴム撥
阿片下等數滴
ヲ加ヘシモノヲ用フ

第十五 亞細亞虎列刺

△定義 虎列刺菌ニ由リテ發シ夏期ニ流行スル

急性傳染病ニテ其主徴ハ米泔汁様ノ下痢及

嘔吐ニシテ容易ニ虚脱ニ陥ル

△原因 其病原菌ハコッホ氏ノカシマバチルハスニシテ

患者ノ糞便及吐物中ニ存在ス

本病ノ傳染ハ本菌ノ消化器即チ口腔ニ侵入スルニ

由リテ起ルモノニシテ傳染媒介中ノ緊要ナルモノハ

一) 本菌ヲ含有スル飲料水ニ供シ或ハ野ノ如キ水

ヲ使用水トシテ食器ヲ洗滌シタルニ由リ

二) 蠅ハ好シテ汚物ニ接觸シテ食物上ニ来リ之ニ病毒

ヲ附着セシム

○重田正見氏引

（一）患者ノ使用ニシテ布衣衣類等ヨリ傳染スルコトアリ

（二）患者ノ使用ニシテ布衣衣類等ヨリ傳染スルコトアリ

（三）患者ノ使用ニシテ布衣衣類等ヨリ傳染スルコトアリ

（四）空気中ヨリノ傳染セズ

以上ノ外本病ノ蔓延シテ催進スル諸因ハ
（一）土地ノ状態 土地不潔ニシテ下水上水ノ設備ナク不衛生的ナル場所ニ病原進入スル中ニキ流行ヲ来ス 且ツ卑湿地、高峯繁盛ニシテ交通頻繁ナル所即チ開港場及高峯地ニ病毒侵入シ易シ

（二）時季 温帯地方ニテハ初夏ヨリ流行シ始メ八九月ニ至リテ頂点ニ達シ秋冷ノ加ハルニテ減少シ冬季ニ至リテ止ム

（三）個人ノ關係 流行時ニ於テモ各人晝リ侵ナ

ル、ニアラズシテ之ニ罹ル者ト然ラザレ者トアリ（胃腸健全ナル中ニ是列細菌ニ對シテ一定ノ抵抗力ヲ有スル）
凡ソ暴食、多量ノ飲料及不消化物ヲ摂取シタル中胃酸ヲ弱シタル中或ハ腸胃ノ防衛力ヲ減シタル中本病ヲ發シ易シ

本病流行ノ持續ハ三四ヶ月間ニシテ其初期ニハ病勢殆ドモ終期ニハ弱シ

一日本病ヲ鍾ルことニ中ハ一時免ニ投性ヲ好シ凡二三ヶ月ニテ消失ス

解剖 （一）コレラノ極期ニ於テ斃レル者ハ腸加蒼色ハ病徵並ニ血液及組織ノ水分缺乏ニ因ル血行障礙性ノ變化アリ

屍体ハ蒼白ニシテ屢口唇鼻尖及指爪チアノ一ゼラリシ
顔面瘦削ス手指屈曲シ上下肢モ亦屈曲位ヲロシ其
筋肉收縮ス(所謂劍定姿勢)死後強直ハ顯著ニシ
テ之ガ為ニ四肢殊ニ指ニ於テ運動ヲ現シ屍体ハ異常
姿勢ヲ呈ス時トシテ死後体温昇騰ス屍体ハ水分
缺如スルヲ以テ腐敗スル一遲ニ右心並ニ大ニ静脈ハ
血液ヲ以テ充實セラルモ左心ハ空虚ニ其血液
ハ暗色濃厚ニシテ凝塊ニシテ白血球増加ス
小腸ノ漿液腫ハ充血ニシテ蓋微紅色ヲ呈シ粘液膜ハ
加害兎性病變ヲ呈シテ腫起潮紅シ粘液ヲ分泌
スルニシテ之ハ血管ヨリシテ旺ニ腸管内ニ滲漏スルヲ以テ
大腸ニ大量ノ未消化汁様ノ液ヲ充メシ臆胞及

パイエル氏集腺ハ亦腫脹ス腸粘膜ノ上皮ハ所々於テ
剝脱ス

腎肉眼上其ニヤ變化ナキモ鏡檢上皮質ノ上皮濁
濁腫脹シ所々崩壊シ脂化スルアリ汗曲細尿管ニ
於テ徃ニ硝子様凹壻及崩壊シタル上皮ノ碎片アリ
(ニコレヲ反應期(虎列剎窒斐土)ニ於テ整レシ屍体
ニ水分缺乏循環障礙ノ病變ナシ徃ニ脾ハ肥大
スルニスル)
腎ノ變化ハ顯著ニシテ腫大シ其色膜緊張シテ容
易ニ剝離シ得ベシ皮質ハ變大シテ血液ニ乏シク甚
シク濁濁シテ淡紅色乃至黃色ヲ呈シ髓質ハ暗赤色
ナリ皮質ノ上皮ハ變性ス汗曲細尿管ニ硝子状並

ニ顆粒状円塊及崩壊したる上皮ノ破片等アリ斯ノ如キ腎ノ変化ハコレヲトキシニ由リ及スルモノナリ

症候

潜伏期 數時乃至兩三日間

本病ハ其経過ニ由リ前駆下痢期コレヲ若心期、絶脈期(若クハ恢復期)、三期トス

(一) **前駆下痢** 多クハ疼痛及裏急後重ナク

テ稀薄色ノ便ヲ多量ニ排泄ス此下痢ハコレヲ病流行時ニ於テ多クノ人ニ起ルモ別ニ重症ニ陥ズ

テ経過スルコトアリ 或下痢ノ多少持續シタル日(一日乃至三日)ニ虎ノ利甚ニ移行シ或ハ斯ノ如キ下痢ノ前駆記スルコトアリ

直ニコレヲ甚ハク現スアリ (二) **虎ノ利** 復作 頻ニ多量ノ稀薄ナル便通アリ

便ハ初メニ尚膽汁色キコト有レテ遂ニ其色トナリ灰色ノ絮状片ヲ混ズル水様液ヨリ成リ米煎汁

ノ如キ外觀ヲ呈シ (米汁様便) 次デ嘔吐ヲ發ス 其吐物ハ初メハ胃内容物トモ見エ米汁様ノ物ヲ吐ク往々煩シキ逆アリ

吐深カニ体内水分缺乏シ皮膚皺縮瘦削シテ

ヲ擧ゲテ骨格ニ皺裂久シク其形ヲ保ツ眼窩陥没

シ顴骨及鼻尖突起ス(虎ノ利) 心動心音

及脈搏微弱トナリ手足厥冷シ三層爪甲シテ

チアリセシメテ分泌腺ニ於テハ減少著クハ閉止ス腸管ノ吸收不能トナルヲ以テ煩渴アリ其他肺

腸筋ノ疼痛性筋痙攣等アリ舌音嘶啞シ或

ハ全ク失音也(危死期也)且肺循環ノ障礙ノ
為ニ呼吸不和ヲ来ス患者甚クハ疲勞ニ至リ且渴
ヲ訴フ皮膚ノ厥冷スルニ拘之極感アリ被衣ヲ脱シ
頻リニ之ヲ脱スル望ム屢胸内苦悶アリ神識ハ多クハ
明瞭ナレ氏從ニ溷濁スルアリ
各作疑キハ絶脈期ニ移行シテ概テ死スレモ幸福
ナクハ恢復期ニ移行ス
(三)絶脈期(又厥冷期)多量水分亡失ノ
為ニ血液濃稠トナリ血行ノ障礙ヲ来シ絶脈
若白ヲ伴ヒ高度ノチアノーゼ皮膚ノ厥冷諸組
織ノ乾燥諸分泌閉止ヲ来ス神識ハ多クハ障
碍セシ呼吸不和煩躁及胸内苦悶ヲ甚ク多

ク百遷リトモ二日ヲ死ス

(四)恢復期 患者ノ絶脈期ニ至ラザル者並ニ幸

ニ絶脈期ヲ耐ヘタル者ハ恢復期ニ移行シ嘔吐止
ニ便通稀少トシ便ノ稠度ヲ増シテ再ビ胆汁色
素ヲ含ムニハ心カ恢復シ声音再ビ響クヲ見
胸内苦悶去リチアノーゼ消散シ尿利アリ初メ
ニ身体尚瘦勞衰弱スレバ漸次健康ニ復ス
多クハ場合ニ熱發(反應熱)シテ一日若クハ數日
間持續シ脈搏頻數トナリテ重複シ頭痛嗜
眠譫語等ヲ来ス
○後貽病 本病ハ劇烈ナル腸加答兒諸脈器
ニ於ケル水分缺乏及循環障礙ヲ来スルヲ以テ種

々、後貽病ヲ及ス、就中顯著ナル虎列刺腎
水、皮膚、皮膚、痛癢、蟄窩、瘰癧、及壞死、腸
官、格魯布性者、ハ、扶地、性、并、症、中、脈、
出血(例之ハ子、字、出血)了、こ、多、數、患、者、ハ
身、件、若、ク、腸、胃、衰、弱、ヲ、貽、シ、時、ト、シ、テ、枯、
痛(暫、夏、狂)ヲ、相、ス、ン、コ、リ

○虎列刺症を變土 本症ハ最モ屢存スル緊
要、後貽病コシテ各虎列刺患者、約四分
二ハ後ニ本病ヲ及ストコトヲ、概テ、其、病、亦、一、週、ハ
後半期ニ於テ、及シ、重症ノ、虎列刺、其、ル、經
過、セ、ン、者、ニ、系、リ、之、ガ、為、ニ、斃、ル、者、サ、カ、ラ、ズ、
本症ハ腸管、扶斯、ノ、如、ク、重症、ハ、性、全、身、症、候、ヲ、呈、シ

体温昇騰、頭痛、眩暈、恍惚、痙攣、浸疹、脾腫
了ラズ、以前ハ腎臟ノ機能、障礙、ヲ、以、テ、本、症、ノ、原、因、
ト、ナ、セ、シ、モ、現、今、毒、素、ノ、吸、收、ヲ、以、テ、原、因、ト、ス、コ、ト、シ、リ

○不全症 重症コレラ、他ニ輕症ノモノアリ
一) 虎列刺下痢 且モ輕症ニシテ前駆下痢ニ
致シ二三日乃至數日、向、下、痢、ス

二) 輕症虎列刺(又類似虎列刺) 虎列刺、固
有症候(吐瀉、米泔樣下痢、嘔吐)アル、病、勢、輕、シ

△診斷 本病ト、敗、羅、巴、虎、列、刺、ト、ラ、区、別、ス、ル、ハ、傳、染、
ノ、狀、態、病、徴、ノ、強、度、及、死、ノ、轉、帰、ニ、依、ル
老人、肺、結、核、虛、弱、者、ハ、病、徴、ノ、顯、著、ト、ス、ニ、先、テ、斃、ル、
コ、ト、アリ 本病ノ下痢、嘔吐、及、虛、弱、ノ、症、候、凡、者、腸

崩頓若くは腹膜と誤ルコトあり 其他砒石、銅吐、酒石、水銀、甲介、有毒菌等ノ中毒就中砒石、毒ト誤ルコトあり

確診スルニ危列刺菌検査由ル

△豫后 ペストニ次テ危険ナリ 其死亡數ハ平均

五十%以上ニシテ 流行ノ初メニ死亡數多ク(五十% 終ニ減小ス 最多ク亦一日乃至二日ニ死ス

△豫防法 ハフキン氏ノ危列刺菌豫防接種法ハ

有效ニシテ一時性ノ免疫性ヲ与ヘシ

其他一般傳染病豫防法ヲ急ラザルベキコト勿 論シ

△療法 (一) 危列刺菌下痢ノ療法 患者ヲ靜

臥セシメ腹部ヲ温ムニ急 解トシテハ 粥汁葛湯

水飴、茶、咖啡、赤葡萄酒(熱シラズモ)ヲ用ヒ

口渴ニキキハ 氷塊、塩酸リモノトテ若クハ 枸橼酸リ

モノトテラ禁ズ

下痢ノ初メニ 消毒性ノ下劑之ハ 甘朮ノ使用

ヲ唱フル者アリ サリト多量ノ下痢ヲ輕減スル目的

ヲ以テ初メヨリ 阿片ヲ用フル者多シ

收斂殺菌ノ目的ニテクシニ 酸、タンニン、タン

ニン、石灰水、ガリチール酸、クレオソート、クレブール

ガリール、塩酸、乳酸、チモール等ヲ用ル者アレ

氏效驗ナシ

本病ニ特效藥ナシ アンチコレリシ、コレラアンチ

近時ノ鏡ニ由
バ阿片ハ腸ヲ
安靜ナラシムル
ヲ以テ危列刺
菌ハ之ガ為ニ弱
シク増加繁殖
シ毒物ヲ吐出
スニシト云

トキレン、コレヲ治療血清アルモ、汎ク應用セラ
ル、ニハラス

ルニシ酸ニ阿片下或ヲ配伍シタルモノヲ、腸灌注
法ヲ行フモノアリ(伊國ノ醫師カレタニ氏)即
チンニ酸五、〇乃至一〇、〇水二〇〇〇、〇アラビヤゴ
ム五〇、〇阿片下或三、十滴乃至五、十滴右混和
シテ三、十度乃至四十度ニ温メ一乃至二リテ、
一日數回徐々ニ灌注ス

カレタニ氏ノ稱用シタルチンニ酸溶液九乃
多量ノ液〇、一乃至〇、二%ノタンニ酸溶液九乃
五、十五リテ、
トキレンノ振也三、十八乃至四十度ニ温
メ八十乃至百立方仙送(水柱)ノ壓力ヲ以テ直腸

ヨリ灌注スルニアリ

ニハ虎列刺及作ノ療法 下ニ物ノミノ場合ニ甘

赤若クハ阿片ヲ與フニキモ 嘔吐ヲ其スルハ、
葡萄酒、
茶、
若クハ、
咖啡、
少量ヲ與ヘ、
心窩ニ茶子
泥ヲ貼シ、
或ハ塩酸モルニテ、
注射スルニ、
嘔吐初回
ニ付、
如何ニ物ヲ與フンモ、
吐スルヲ以テ、
何物ヲモ與
ヘズ、
テ唯渴ヲ醫スルニ、
氷片ヲ嚥下セムニシ

皮膚厥冷シテ脈搏微弱ニ付、
末梢部ノ循環ヲ
佳良トスルニ、
爲ニ温浴若クハ熱浴ヲ施ス、
而シテ浴
中ニ湯ヲ加ヘテ漸次湯ノ温度ヲ高クスルニ、
又芥子
浴ヲ用スルニアリ(サレドモ、
其ノ由リテ皮膚ノ
血管擴張スルニ、
心臓及動脈系統

ニ於テ血液減少スル恐アリ 其他末梢部ノ循環
ヲ容易ナラシムル為ニ脚部ニ湯婆ヲ垂キ皮膚ヲ
摩擦シ芥子泥及他ノ刺激性物ヲ海布ス
射内水分ノ缺如及血液濃厚ニ對シテ体内ニ
水分ヲ輸送スルニ必要アリ 故ニ便利ナル皮下
灌注及靜脈注射ナリ
皮下灌注法ハ大量ノ水液ヲ皮下ニ灌注スル法
ニシテ(カシタニヤノ法)ハ食塩六〇(或ハ水中ナル
カウノ度弱キヲ以テ食塩四〇)炭酸ナトリウム三
〇ヲ水一リトシん中ニ溶解シ煮沸シ殺菌シ四
十度乃至三十八度ニ冷却シ身体ノ各部即チ腹
部大腿及臀部ニ於テ穿リテシ注シ入ス(此法

ヲ行フ時ハ微弱ナリト服搏ハ再ビ強實トナリ一般
症候モ亦善良トナレバ憾ムラズ其效力一時性ニ
ス(キスレテ久シク持続ス
靜脈内注射ハ皮下灌注法ニ比シバ更ニ有
效ナリ 其法ハ食塩水ヲ以テ穿ルニ交ニ温
メ其回分ノ一乃至一五リトシテ靜脈内ニ注シ
スニテ(斯ノ如クシバ病後ニ變シテ恰モ健全ニ復
セシガ如キ觀ラズスルヲアルモ其效驗同ジク一時
性ニス(キス)
心臓ニ於テ興奮セシムルニ樟腦油ヲ注射
スルニ肺腸ノ如ク疼痛性症亦ニ對シテハ按摩
ヲ行ヒ脚湯ヲ施シ或ハ塩酸モルニハ注射ヲ行フ

第十六

吐瀉病(霍亂)
(歐羅巴虎列刺)

△定義 吐瀉病トハ虎列刺菌ニ因セバシラカシ亞
細虫カ列刺ニ酷似シタル症候ヲ呈スル強劇ナル
急性胃腸加吞吐ヲ總稱ス

△原因 本病主因ハ食餌不摂生、不良ノ飲水
若ク麥酒、腐敗セル肉、魚肉、甲介類及菌子、
中毒、冷水及氷ノ摂取、感冒並ニ暑中感動
等ナリ本病ハ屢夏日ニ来リ往々散在セル或
流行性ニ来ルコトアリ

△症候 通常輕症トシテハ症候ニ類似シ或ハ
突然ニ或ハ地心腹部ノ雷鳴疼痛並ニ胃部
ノ重シ

（霍乱）
嚴重者、前駆症候ヲ以テ下痢、發作ヲ来ス
下痢ハ反覆シテ現レ便ハ水様トシ、尚胆汁
色素ヲ有ス、通者同時ニ嘔吐ヲ發シ其吐物ハ
初メハ胃内容物トシ、後ハ胆汁ニ染ミタル
物ヲ吐スルコトニテ、口内ニ振取タル物ハ、凡テ
吐出ス、脈搏、微細頻數トシ、手足厥冷
シ、顔色蒼白トシ、衰弱シ、煩渴ヲ訴
フ、腹膨脹、或ハ膨滿ニテ、或ハ隠没ニテ、
アリ、往々壓迫ニ對シテ、敏テ痛シ、
良シ

多クハ、輕症トシ、往々重症ヲ發シ、真性虎列
刺ニ酷似シ、唯細菌的検査ニ由リテ、兩者ヲ區別

シ、
憔悴、末端部、厥冷及チ、皮膚弾力
減少、尿量減少若クハ閉止、虎列刺聲、肺
腸筋、痙攣ヲ示ス、衰弱シ、死ス
トアリ、
病、加之虎列刺ニ扶斯様ノ症候ヲ見
トアリ

△**診断** 細菌的検査ニ由リテ、
多クハ、善良、稀ニハ不良

△**療法** 初期ニ、
此ニ、乾糲、食少、振盪、
子ヲ行フ

- 鑑別疾患
- 一 腸王扶斯
- 二 敗血症
- 三 間熱
- 四 尿毒症

第十七 急性全身粟粒結核

結核菌血中、空鼠へ、右肺器、輸送、さうして無數、粟粒結核ヲ其生スルヲ云フ

原因 肺、肋膜、骨及關節等ノ結核性病竈

ヨリシテ結核菌、肺脈若ハ淋巴管ニ空鼠入ルニキハ菌、先ツ右心ニ入り多クハ肺儀ニ達スルニ其一部ハ毛細管ヲ通リシテ左心ニ入り之ヨリ諸臓器ヲ侵ス

菌血中ニ於テハ蕃殖スルヲ病ハ常ニ結核性ニシテ於塞性傳染病ナリ

本病ハ幼年於ニ多クモ強ク幼年ニ於テハ少クシ

解剖 病理解剖的變化ハ結核菌ノ多量

結核菌ノ多量

○腸管扶助斯鑑別

- (一) 熱 本症不定型性
- (二) 脈 頻數
- (三) 咳嗽 強シ
- (四) 呼吸困難 及 多クセ 顯著
- (五) 腦膜炎 症候 有
- (六) 脈絡膜 結核菌
- (七) 証明 得
- (八) 脾腫 著明ニ
- (九) 室柱 結核菌 尿 及便ニ 於テ 証明 得
- (十) 氏反應 呈ス
- (十一) 粟粒 結核 痰 及血中 及腦脊液 中ニ 結核菌 有

血中ニ菌入ルニ後 結核菌ノ生死 他細菌ノ混在ニ 由リテ 甚ク 田共アリ

生活ニ 細菌血中ニ 侵入スルニ後 各ク 形成ス

死シタル 細菌中ニ 主トシテ 中毒 症候ヲ 呈ス

粟粒 結核 白色者ク 灰白 透明ニシテ 僅ニ 膠

質ニ 大サニ 包ムル 粟粒 大ニ 包ムル 其 陣回ノ モノ

中央部ヨリ 乾酪 変性ヲ 起スルアリ

肺病ニ 多數ノ 粟粒 結核アリ 肺病ヲ 抑スル

ルニ 小結核アリテ 恰モ 小 霰 彈ヲ 充テタル 嚢ニ 似

ルニ 甚ク 感アリ 肋膈下ニモ 之ヲ 見ルニ 稀ナラズ

其他 肝臓、脾臓、腎臓、骨髓、漿液膜、腦

膜ニモ 粟粒 結核ヲ 生スルアリ 殊ニ 臨床上 必ク 寫

明ニ 得ベシ

ルハ 脈絡膜ニ 於テ 粟粒 結核アリ 斯ノ 如ク 粟粒

結核 脈絡膜ニ 多ク 其 血管ニ 富ムルニ 由リテ

粟粒 結核 外 身體ヲ 結核スルニ 何レカノ 場所ニ

於テ 原基 病 竈ヲ 發見シ 得ベシ

症候 本病ノ 症候ハ 多様ニシテ 或ハ 結核 プロテ

ィン 中毒ニ 由リテ 發シ 或ハ 局所ノ 結核 形成ニ 由リテ

發ス 其中 毒ニ 因リテ 全身 症候ハ 本病ノ 本體ニ 比シ 其

經過 中ニ 屢高所ノ 症候ヲ 發スルアリ

(一) 熱ハ 常ニ 存在シ 多クハ 急ニ 上昇シテ 發病 前日 若クハ

前二日ニ 於テ 三十九度 乃至 四十度ニ 達スルニ 至リ 腸管 扶

斯ノ 如ク 高度ニ 昇ルニ 至リ 而テ 或ハ 稽留シ 或ハ 弛

張シ 或ハ 間歇シテ 定型性ヲ 示サズ

(一) 脈 熱ニ比スレバ多ク既ニ初期ヨリシテ一分百二十ニ

百五十ニ考スルヲアリ

(二) 呼吸器 而ヨリシテ咳嗽アリ殆ド常ニ呼吸數増

加シ一分間四ノ六ニ至ルニシテ小兒ニ於テ九十二ニ

至ルアリ 屢ニシテインストリヤ呼吸現ルカヨリス

本病ノ経過中ニ往々劇咳ノカニ急性肺膨脹ヲ表

スルアリ

(三) 神経系統 頭痛、眩暈、昏瞶、耳鳴、嗜睡

眩暈、不眠等ヲ表スルヲアリ 又ハ肌肉衰弱、腕力、

倦怠アリ 往々痙攣及知覚ニ敏ヲ表ス

粟粒結核ヲ胞膜ニ登ルニシテ神經症候強ニ即チ

嘔吐、脈変化、眼前麻痺、瞳孔縮小等ハ散在

ケルニシテ症候、脳神經ノ麻痺、四肢ノ痙攣等アリ

(四) 消化器及泌尿器 舌ハ乾燥シテ苔ヲ帯フニ食

慾ハ缺如シ悪心嘔吐アリ便ニ通率秘結ス

尿ハ黄汗ノ甚キカニ減少シ、蛋白質、ヘプトンラ含

ム皮膚 通常蒼白色ヲ呈スルニ呼吸困難難滯キ

トシテチアハトセラヨク多ク強キ発汗アリ時トシテハ口

唇ノ富行疹、蕁麻疹、血斑、結節性紅斑及其

他皮膚疹ヲ見ル

(五) 生理学的症候 プロテインニ用ニ中ラテ肺ニ慢性

加層見ラサス 打診上ニ變化ナキモ聴診上ニ肺胞音粗濁ニ

シテ乾性囉音、捻髪音若クハ水泡音ヲ聴ク呼吸困難

難ニ致セシテ生理学的症候、輕微ナルニ診斷上緊要ナリ

心臟ニ於テ心尖ニ收縮期的雜音ヲ聽キ、肺動脈系ニ音ニ
進ス或ハ心濁音部ハ右方ニ擴延スルコトアリ

脾ハ増大スルコトアリ

眼、脈絡膜ニ粟粒結核ヲ見ル、是本病ノ診斷上
緊要ナル症候ナリ、其他瞳孔ニ變化(縮小或ハ散大)網膜

出血ヲ見ルコトアリ

△區別 諸症ヲ總括シテ凡ソ三種ニ區別ス

(甲) 室扶斯樣症

多ク前徵(頭痛、食慾不進等)アリ、次ニ熱、數日、二十
九度乃至四十度ニ達シ、呼吸及脈搏増加シ、神識障
碍及譫語ヲ出ス、其他脾腫、鼓腸症、莖薇疹樣發
疹、下痢アリ、衰弱シテ短時日中ニ斃ル、本症ハ局所

症候ナリ、其症候ハ專ラ結核毒ニ因ルル全身症候)

(乙) 肺臟症

肺ノ症候強ク、劇シキ咳嗽アリ、刺スカ如キ胸痛、頻脈、
及呼吸増加アリ、兩三日ノ後ニ、呼吸困難、及端坐呼吸
ヲ發シ、チアノーゼ、高度ノ衰弱及急速ノ脱力アリ、惡寒ヲ
伴ヒテ高热ヲ發シ、次ニ氣管支加吞兒ノ症候ヲ現シ、
胸部ニ鼓音及濁音ヲ放ケ鐵鑄色喀痰アリテ肺ヲ
若シハ熱性重症氣管支加吞兒ニ類似シ肺水腫、由リ
テ斃ル

(丙) 腦膜症

頭痛、昏憒、譫語、痙攣、項部強直、眼筋麻
痺等アリ、熱ハ前二症ノ高カズ、多ク小兒ニ發ス

幼者ニ於テハ其毒素急ニ吸收セリ以テ室托斯症
 ラ多スル一時期多ク之ニ及テ大人ハ肺臓症ヲ多クシ
経過 平均二週乃至三週ヨリ六週乃至八週ニ
診断 本病ニ向テハ病徴ハ僅微ナルハ缺カレニ
 拘テ重キ全ク回復アルニ咳ハ因難並ニ脈博頻
 數ヲ来ス

豫後 不良

療法 對症的ニ成ルガ体カヲ維持スル為ニ流毒ニ
 富ム食餌ヲ與ヘ心カヲ強クスル為ニキキムス樟腦ヲ
 投ス、咳嗽ニ對シテハ**麻醉劑**、熱ニ解熱劑、胸痛ア
 ル中ハ湿布瀉浴法ヲ行フ

第十八 百斯篤

定義 ペスト桿菌ニ由テ起ル急性熱性傳染病
 ニシテ殆ド常ニ不良ノ轉帰ヲ来ス本菌好テ淋巴裝
 置ヲ侵シテ**腺腫**ヲ生じ或ハ急性肺炎ヲ起ス以テ
 特異トス人類ノ外鼠族ヲ襲ヒテ同族間ニ劇烈ニ
 ル流行ヲ来スモノナリ

原因 本病ハ老幼男女ヲ問ハズシテ其ノ職業ハ
 其生活狀態ト相関聯シテ其因ヲモ下等ノ労働
 者ハ本病ニ罹リ易シ**就中**病者ノ便ヲ侵レ入ル地
 ニ於テ生ズル者ハ**侵**ルハ船、船、或ハ港灣ノ倉
 庫ニ出入スル**仲仕**ノ類或ハ印交棉花ヲ用フ紡績
 會社ノ職工ナリ此レ既ニ病者ノ散漫ニ侵レ入ル
 百斯篤

ヲ職業ヲ撰バズ寧ロ空ノ光線ハ不充ナル位
居ニ密棲ル者及鼠族ノ棲息交通ニ便ナル家
屋ハ伝染ヲ散ル

病毒ノ侵入門 ハ主トシテ皮膚ナリ昆蟲ノ咬傷創
或搔痕等モ亦傳染ノ門トナル 其他結膜、口、
鼻粘膜、生殖器粘膜等ヨリモ侵入ス(斯ル皮膚
及粘膜ヨリ病毒ヲ受ケルニハ局處ニ人々ノ反應
ナリシラ當該淋巴腺ノ腺腫ヲ生じ或ハ皮膚ヨリ
ペスト膿疱ヲ生ズ) 第二ノ侵入門ハ呼吸器粘膜
ニシテ此場合ニ病毒ヲ吸ハスルニ由リテ原發性肺炎
ヲ惹ス) 第三ニ人ノ消化器粘膜ハ侵入ノ門トシテ得ルカ
ト云フコトハ頗ル疑ハシ第四ニ扁桃腺及舌根咽頭等ノ腺様

装主ハ往々侵入ノ門トナル

傳染ノ源トナルモノハ先ツペスト患者ナリトス

ペスト患者ヨリモ一層有力ナル病毒傳染者ハペスト鼠ニ
通事人ノペスト流行スル中ハ同時或ハ屢之ヨリモ前ニ鼠族
間ニ流行ス鼠ハ人ト異ラテ容易ニ腸ペストヲ起シ且速ニ
敗血症ヲ起スラシテ糞尿其他ノ排泄物ニ由リテ病毒ヲ
周囲ニ散亂セシム

ペスト流行ノ時季トノ關係ハ 甚重要ナルモノ我
邦ニ於テハ專ラ秋冷ヲ起リ初冬ニ於テ多ク最
寒ノ時期一二月ハ患者少ク三四月ヨリ再び發
生シ八九月冬極ノ時ニ至ルテ止ムヲ迎テトス
解剖 ペスト屍ノ外觀ハ特殊ノ点無シ殊ニ榮

養著しる侵しガルヲ常トス但高熱ノ結果トシテ
多少顯著ナル屍斑アリ死後發直ハ迅速ニシテ
強度ナリ。ペスト癰ヲ生じタルハ悪性癰ノ變化
アリテ皮膚ノ局部ハ多ク已ニ壞疽ニ陥リ汚穢ノ
潰瘍ヲ形成シ皮膚及皮下組織ニ多量ノ浸出
液及出血アリ其液中ニセト菌ノ數ノペスト菌ヲ認
又此癰或ハ腺腫ノ附近ニ於テ屢ニ小水疱ヲ形
成スルアリ

ペストニ於テ最モ著シク侵サレハ諸種ノ淋巴裝
ミテ身体各部ノ淋巴腺ハ多少ノ變化ヲ起ス淋
巴腺ノ外腸ノ濾胞、舌根ノ淋巴裝ニ殊ニ扁桃
腺ノ凡テノ淋巴裝ニ至ハ常ニ多少侵サルモノトス

病毒侵入部ニ該當スル淋巴腺腫脹ヲ原發性
腺腫ト稱ス原發性腺腫ハ其大小ニ係ラズ解剖
的ニ特異ノ變化即チ高度ノ充血及出血アリ
且腺周囲及ニ近隣諸組織ニモ速ニ出血性
浸潤ヲ来シ多量ノ膠樣浸出物ヲ生ズ更ニ
時期ヲ經過スルハ腺腫内部ハ漸次變性ニ陥リ或ハ
化膿シテ膿瘍ヲ形成シ外部ニ破開スルアリ或ハ壞死シ
軟化シテ稀ニ吸收セラルルアリ此時期ニ於テペスト菌
ハ多ク死滅シ或全クセ菌トナリ或ハ混合傳染化
膿菌ノミヲ見ルコトアリ斯ルハ固有ノ變化ヲ呈スル
原發性腺腫ハ僅ニ一二ノ腺ニ止マリトモ又屢
ニ接淋巴腺ヲ侵シ同様ノ變化ヲ起ス例之ハ股腺

ノハストヨリシテ氣管腺、腸骨腺、終ニハ腹膜後、
淋巴腺ヲ侵スガ如シ之ヲ第一、**砂原**、**腺腫**ト稱ス
續發性腺腫ニ**病毒**血中ニ入リ血流ニ依リテ遠隔
部ニ轉移シテ發スルモノニシテ例之ハ**股腺**、**ペスト**ニ於テハ
腺窩腺ノ腫起スルガ如シ
脾腺ノ腫大シテ其質柔軟且脆弱トシテ其中ニ
多數ノペスト菌ヲ含ム
肺腺ハペスト菌ノ最モ好シテ増殖スル場トシテ原
發性、或ハ續發性、**冬病**ヲ起ス、**原發性**ハ**ペスト**
腺ニ所謂滴狀傳染ニ依テ直接ニ病原ヲ吸
入シ或ハ咽頭扁桃腺子ノペスト病竈ヨリ病
毒ヲ吸入スルニ由リテ起ルモノニシテ恰モ第一列及子

ニ列原發性腺腫ニ相當スル關係ヲ有ス、**續發性**
ペスト腺ハ續發性腺腫ニ比較スルキモノニシテ轉移ニ
由リテ起ル
心臟ハペスト毒素ハ作用ヲ受ルモノトシテ心室ハ
擴張シ筋肉ハ變性ニ陥リ柔軟ニシテ蒼白灰
黄色トシ、**内外膜**及筋肉内ニモ亦点狀出血ア
肝臟ハ通者多ク増大シ柔軟ナリ、**其他**ハペス
ト死ニ於テ若シハ各部ニ於テ点狀出血ニシテ
其數ニモ多ク且密著スルコトアリ
症候 **潜伏期**ハ通例三乃至五日シ(サレド肺腺
ノ直接吸入ニ因テ起ルモノハ二日ヲ起シザルコトアリ一
週間ヲ起スルコト稀シ)

多クハ頭痛、眩暈、惡寒、戰慄ヲ以テ突如
喪病シ、前驅症狀ヲ認ルルナリトモ稀ニ其
病前一二日間、頭部、頸部、肩胛倦怠、
輕キ頭痛、眩暈及屢原炎腺腫部、鈍痛
ヲ感スルナリ

意識ハ發病後一時、瀉瀉スルニ多ク、再び恢復
ス内トシテハ戰慄ト共ニ意識ヲ失ヒ死ニ至ルマテ復
マザルナリ之ニ及ビテ臨終マテ意識以テ察スル
アリ甚ク不安シテ起坐或ハ逃走ヲ企フル稀トス
病型ハ別テ次、血種トス、孰中最多クモ、原因
有ルハ腺ペスト、是ニ危險ナル腺ペストニシテ
皮膚ペストハ比較的ニサリ且多クハ輕ク経過ス

稀ナリ豫後不良ナル腺ペストナリ

(甲) 腺ペスト (ペスト腺腫)

多クハ突如戰慄ヲ以テ高熱ヲ發シ全身重患ハ
狀、結核、瀉瀉ヲ伴フ發熱ト同時或ハ多少前
後シテ一部ノ腺ニ腫脹疼痛ヲ發ス、腺腫ノ大
ハ種々ニシテ極テ急性ニ経過スル時僅ニ小豆
大ニ至キス随テ周圍ノ浸潤ナリ皮膚ニ認め可キ變
化ナリ、壓迫スルニ疼痛ヲ感セス(斯ル如キ症ハ毒
力強大ナルニ病毒ノ感染並ニ抵抗カ弱キ小
兒ニ於テ多ク見ルルニ魚腺腫ペスト)此症ハ
既ニ其症ニ於テ死亡シ剖檢ノ際小シク原炎
性腺腫ニ特異ナル變化ヲ呈スル腺腫アルヲ發見シ

且敗血症ヲ見セルヲ見ル 腺腫漸次増大スルハ胡桃
大、桃大、手拳大、或ハ其ハ上ニ達シ、周囲ノ炎症、浮
腫ヲ起シ、少シク觸ルニモ劇痛アリ、局部ノ皮膚ハ紅
赤、出血小水疱又ハ癰ヲ生ジ、淋巴管ヲ伴フアリ
其部ハ紅色ハ漸次暗紫色ニ變シ、靜脈ハ怒張セル
ヲ見ル 腺腫漸ク其内容變性ヲ著スルハ體温
漸次下降シ、腺質稍ニ柔軟トナリ、周囲ノ浮腫輕
減シ、疼痛亦ハ緩解ス、腺腫軟化シテ遂ニ吸收セ
ル、一アリトモ多クハ化膿破潰ス
而テ此時期ニ於テ再ニ化膿熱ヲ著スルコト多シ
原發性腺腫ノ部位ハ、股腺及鼠蹊腺ヲ最モ多
シトシ、腋窩腺之次ギ、頸部、腺最モ少シ

原發性腺腫、ホト極度ニ遠セザレニ先ケ通テ各
部ニ轉移性、續發性腺腫ヲ生ズ、其部位ハ原
發性腺腫ト一定ノ關係ヲ有セス、例之バ右股腺ハ
トニ左腋窩腺、續發性腺腫ヲ生ズルヤシ

乙 肺ペスト (ペスト肺炎)

原發性ペストハ通常我慄、高热、頭痛、眩
暈、嘔吐等ヲ以テ始マリ、結膜赤ラマシ
感、胸痛アリ、呼吸頻數ニシテ一分間ニ五十以上ラ
數ハ甚シキハ七十五迄ニ達シ、高度ノチアシラ
多ス、脈搏モ亦頻數ニシテ軟弱ナリ、肺ノ葉或ハ
數葉ニ瀰音アリ、屢ニ鼓調ヲ帯ブ、聴診ニ於テ
ラセル或ハ笛音ヲ聽キ、時トシテ肋膜摩擦音ヲ

痰を吐き、咳嗽、通者既二日、其後咳嗽發作、頻回、短ク羅聲ヲ帯ビ衝突状ニシテ容易ニ多量、咳痰ヲ排シ、咳痰、初メハ泡沫ヲ有ス、粘液状ニ成速ニ帶黄紅色或ハ暗紅色ニ變シ、往ニ淡キ純血液ニ比ス、キアリ何レモ數ハペスト菌ヲ含有ス、又混合傳染セル肺炎、重球菌連鎖球菌、流行性感菌、菌ヲ混ル、アリ、肺炎迅速且顯著ニ増大ス、意識ハ消失ス、多シ著シ意識明瞭ナルハ其キ若胸ノ顔貌ヲ呈シ不穩ナリ、**経過**ハ極テ迅速ニシテ三、四日以内ニ心臓、肺、或ハ肺水腫ヲ起シテ死ス、腺ペスト、**経過**中ニ續發性肺炎、ペストヲ發スル

↑少カラス、其他呼吸性肺炎ヲ起ス、アリ

丙 皮膚ペスト (ペスト膿疱 又 ペスト癰)

皮膚ノ病変侵入部ニ通者何等ノ反應ヲ示ス、**腺**ニ病変ヲ生ズルヲ示現トス、**時**トシテ侵入局部ニ於テ原發性ペスト膿疱或ハペスト癰ヲ生ズ、之ヨリシテ淋巴管、**末**ヲ穿シ遂ニ淋巴腺ヲ侵ス、**心**アリ或ハ單ニ皮膚ノ變化ニ止マリ腺腫ヲ缺ク、**ア**其ノ概テ輕ク経過シ往々治癒ス、**ア**膿疱ノ初メハ上皮ニ於テ点状ノ發赤隆起ヲ生シ、次テ水疱ニ變シ其内容ハ漸ク濁濁シテ膿様トナリ、**周**紅暈ヲ呈ス、屢々淋巴管ノ腫起シテ紅色

線ヲ劃スルヲ見シ其變化ノ途ニシタル者或ハ同時ニ數個ノ膿疱ヲ生じタル者ハ黑色ノ上皮ヲ生じ其周圍ニ高度ノ炎症性浮腫ヲ呈シ淋巴管及クヲ起シテ上皮ハ脱落シテ時トシテハ手背大ニ遠スル不正形汚穢ノ潰瘍ヲ生じ其周圍ニ急性滲潤セル皮肉ノ堤防狀ニ隆起セルヲ見ルコトアリ是即チハスト癰ナリ更ニ其周圍ニ紅暈ヲ有セル數個ノ小水疱輪狀ヲナシテ美麗ニ排列セルコトアリ膿疱ノ内容及癰ノ組織液オハ數ノスト菌ヲ含ム

丁 眼ノスト

結膜ニ病毒ノ侵入シテ急性ノ結膜炎ヲ惹スルコトアリ其症狀ハ結膜膿漏ニ類シ其排泄物中ニ多數ノスト菌ヲ有ス

ペストノ熱ハ常ニ急劇ニ發シ突然三十九度或ハ四十度時トシテハ四十二度ニ昇ル熱ハ稽留スルコトナク甚シク弛張セルヲ常トシ其日差ハ二度ヲ超スルコト稀ナク過常ク刻三十九度或ハ四十度ニ昇ルモ初三朝ハ三十七八度ニ下降スルコトアリテ殊ニ初期ニ於テハ本病ノ診定ヲ躊躇セシム斯ノ如キ弛張ハ決シテ豫後ヲ定ムルニ参考トナラスペストノ多クハ四五日內ニ死亡シ死亡前ニハ体温急劇ニ下降シ死後ニ再ビ昇騰スルコト多ク奇ニシテ治癒ニ向フハハ四五日乃至六日ニシテ体温漸ク下降ス此下降急ニ有利セルモノアリテ弛張シテ徐々ニ下降ス

心臟及血管に於る症状ハ頗ル顯著ナリ蓋シ
各種急性傳染病中迅速且高度ニ心臓力ヲ
障碍スルモノストノヤキモハ他ニアザレルニ而テ心臓
力ノ狀況ハポストノ徑ニ及轉昂ト重要ノ關係ヲ
有シ豫後上景モ注意ヲ要スルモノトス且ポストノ
直傷死因ハ多ク心臓麻痺トバチ心音弱ク
且不純トナリ心尖及左房ニ物間ニ於テ往々收縮
期的雜音ヲ聴ク脈數ハ病初ニ於テ既ニ屢々百
二十ヲ算スルモノ初期ヨリ百四十ニ上ルモノ豫後不良
舌ハ初メハ白色苔ヲ被ルモノ二日ニシテ舌尖舌縁
或ハ心中線部ノ苔消失シ該部ノ乳嘴腫起潮
紅シチラス古ト區別シ難シ

咽頭ハ暗紅色ヲ呈シ殊ニ扁桃腺ハ通常腫脹充
血シ或ハ義膜ヲ生ジ或ハ潰瘍ヲ生ズルモノアリ往
々扁桃腺ノ病変侵入トナリ随ヒテ原發性
病竈ヲ生ズルモノアリ(扁桃腺。ポスト)
食欲ニ甚ク不定ニシテ常ニ煩渴アリ嘔吐ハ專ラ初
期ニ著スル病徴ナリ時トシテ腹痛ヲ著ス便ハ概シテ
秘結ス
肝臟ハ少ク増大ス脾腫ハ通常之ヲ觸ルモノ
ヲ好シ時トシテ既ニ一日ニ於テ之ヲ觸ルモノアリ
尿ハ比重輕ク其反應酸性ニシテ常ニ少量ニ至膏
質ヲ含有ス時トシテ血液ヲ混ズルモノアリ
血液ハ白血球増加ヲ見シ

神速及精神。障碍中亦常ニ来ルモノ、頭痛眩
暈ナリ、意識ハ時トシテハ、口渴、渴、時トシテハ
期マテ明瞭ナリ、譫語及種々之痙攣ヲ来ス、アリ
診、断、上、必要ナル、重症、舌性言語ナリ

経過 多クハ發病後三乃至四、五日ニシテ体温
下降シ、心膈力衰弱シテ死ニ帰ス

然レハ急劇ニ症ハ僅ニ數時間或ハ十數時間ニシテ救死、
ナリ』加之所謂電撃性ノストニ於テハ、健、尿、心、葉
死ル者ノ突然ニ卒倒シテ死スルナリ

肺、スト及所謂血液ノストハ、経過、迅速ニシテ概シ
テ一兩日中ニ不良ノ轉帰ヲ取ル、腺及皮膚ノストハ
比較的、緩慢ニシテ概ニ數日乃至一週間ヲ要ス、腺

腫化膿、破潰シテ幸ニ恢復セシムルハ、経過、長クシテ少
クトモ一ヶ月乃至三四ヶ月ニシテ漸ク健ニ復ス

豫後 不良ナリ、初期ニ輕症ノ觀アルモ、豫後ニ就テ
云フコトハ、殊ニ体温、豫後、上ノ價值之ニ然レ
比、四十度或ハ三十九度以上ノ体温、持續スルモノ、豫後、后
不良ナリ

豫後ヲ定ムルニ最モ重要ナルハ、脈搏ニ
シテ、脈搏ト体温ト並行シ、且、百、七、五以下ニ止マルハ、
他ノ症状如何ニ關セズ、尚、初、期、ナリ

血中ニスト菌ノ存在スルモノ、概、シテ、不良ナリ
血中及喉、痰、中ニ重、多、菌、連續、球菌、混合、傳
染アルモノ、甚、ダ、危、險ナリ

肺、ストハ、治、癒、ス、ル、強、ト、ス、
腺、ストハ、豫、後、上

其部位必也、關係了、**頸腺**ハ是ニ及ビ、**皮膚**
腺、**腎腺**、**胸腺**、**喉**、**次**、**比較**的良、**山**、**皮**
汗、**通**、**帶**、**死**、**人**、**近**、**ケ**、**示**、**ス**

死亡、**數**

流行する様々なる通者ハナク九、**死**

診断

其ノ困難ナリトシ、**臨床**的**診断**ノ助

ニキ初期症候ハ惡寒、戰慄、**嘔吐**、**高熱**、**脈**、**性**、
脈、**數**、**結**、**膜**、**充**、**血**、**舌**、**苔**、**上**、**分**、**行**、**蹠**、**跖**、**重**、**舌**、**咽**、**頭**、
充、**血**、**煩**、**渴**、**乾**、**咳**、**酸**、**可**、**狀**、**態**、**了**、**ナリ**、**此**、**時**、**期**、**於**、
テ、**腸**、**胃**、**扶**、**斯**、**床**、**利**、**重**、**利**、**其**、**他**、**急**、**性**、**傳**、**染**、**病**、
ト、**之**、**別**、**煩**、**々**、**困**、**難**、**ナリ**、**股**、**腺**、**一**、**ス**、**ト**、**花**、**柳**、**病**、**ト**、
鑑、**別**、**ラ**、**得**、**ズ**、**ス**、**ト**、**腺**、**腫**、**ハ**、**概**、**シ**、**テ**、**深**、**部**、**ニ**、**在**、**リ**、**花**、**柳**

病、**腺**、**腫**、**ハ**、**淺**、**部**、**ニ**、**在**、**ス**

頸、**腺**、**一**、**ス**、**ト**、**流**、**行**、**性**、**耳**、**下**

腺、**一**、**ス**、**ト**、**後**、**ニ**、**カ**、**ラ**、**ス**

皮、**汗**、**一**、**ス**、**ト**、**普**、**通**、**ノ**、**癰**、**又**、**ハ**

脾、**脱**、**疽**、**癰**、**ト**、**鑑**、**別**、**ラ**、**得**、**ズ**

一、**部**、**核**、**腺**、**ニ**、**變**、**化**、**シ**、**其**、**中**、**ニ**

一、**部**、**核**、**腺**、**ニ**、**誤**、**シ**、**テ**、**ナ**、**リ**

肺、**一**、**ス**、**ト**、**核**、**害**、**者**、**性**、**肺**、**炎**

一、**部**、**核**、**腺**、**ニ**、**同**、**シ**、**キ**、**モ**、**唇**、**一**、**ス**、**ト**、**缺**、**キ**、**害**、**疾**、**中**、**ニ**、**纖**、**維**、**素**、**ヲ**、**有**

ス、**又**、**核**、**害**、**者**、**性**、**肺**、**炎**、**ノ**、**如**、**ク**、**著**、**シ**、**キ**、**腸**、**胃**、**ヲ**、**モ**、**セ**

ガ、**中**、**ニ**、**死**、**亡**、**ス**

要、**ス**、**ル**、**ニ**、**一**、**ス**、**ト**、**診**、**断**、**ハ**、**臨**、**床**、**的**、**症**、**候**、**ノ**、**ニ**、**依**、**リ**、**テ**、**行**、**ハ**、**ス**

之、**ニ**、**申**、**ス**、**ラ**、**一**、**ス**、**ト**、**疑**、**フ**、**起**、**ル**、**ヲ**、**ハ**、**充**、**分**、**ナ**、**リ**

一、**ス**、**ト**、**疑**、**診**、**ラ**、**サ**、**ス**、**ニ**、**尚**、**一**、**ノ**、**必**、**要**、**点**、**ハ**、**疫**、**學**、**上**、**顧**

慮、**ナ**、**リ**、**茲**、**ニ**、**地**、**ニ**、**於**、**テ**、**彰**、**シ**、**テ**、**一**、**ス**、**ト**、**疑**、**ハ**、**シ**、**キ**、**症**、**候**

ヲ、**口**、**ス**、**ル**、**患**、**者**、**ニ**、**遭**、**遇**、**シ**、**ル**、**中**、**其**、**他**、**流**、**行**、**ノ**、**患**

者職業者若シ往來船船舶若クハ倉庫等ノ
關係ヲ調査シ其他患者ノ有病地ニ交通セシヤ
否ヲ顧ルベシ

以上ノ検査ニ由リテ得ル結果ハ凡テポストノ疑ヲ起
シタルトキハ速ニ判定ニ必ス細菌學的検査ハ
結果ニ依リテ行ハルベシ、實地医家ハ臨床的症
候或ハ即時ニ行ハルベキ細菌検査ノ成績ニ由リ
ポストノ疑ヲ措クベキ場合ハ疑似病トシテ直ニ之
ヲ報告シ其結果ニ依リテ検査當局者ニ由ラシムル

豫防法 外來ノ病毒ニ對シテハ防疫業ハ海港
検査法ヲ行フベシ

ポストノ流行既ニ果シテハ個人ノ注意最モ必要ニ

シテ身体衣服等ニ付着シタル病毒ニ對シテハ消毒
シテ且氣流ノ出ハラサシムル事ニハハポストハ其
生ズルコトナシトシテ可ク然レバ職業者ノ行動
由リ或ハ往來地ニ關係シ由リニ病毒ニ觸ルハ
危険人ハ其身体ノ健康及皮膚ノ保護ニ
注意ヲ用フベシ尚進ニテ某國ヲ除キ免疫性ヲ
有ルノ方格ヲ得セザレバ可ク(豫防注射)

療法 熱病的療法中最もモ重要ナルハ心臓カ
ヲ保持スルコトニシテ初期ヨリケキナリス、ポスト
フアンツス、等ヲ用フルヲ要ス其他ストリヒニンヲ用ル
ヲポストニ用フ者アリ

又必要ニ應ジテ過度ニ興奮劑ヲ與フベシ

急性化膿性骨髄炎

咽喉を以て本病の前駆スルコトアリ

本病に患寒ヲ以テ發熱シ三十九度以上ニ達スルト通
常四十度ヲ越スルコトナシ脈搏及呼吸頻數トナリ

發熱ト共ニ關節ニ變化ヲ来ス(初メニ侵サレハ大
ニ關節ニシテ上肢ニ始マリ次ニ下肢ヲ侵ス)

本病ニ固有ナル關節ニ變状ニ屢々交換スルコトナリ
而シテ甲關節ヲ恢復スルニシテ關節ニ變状ニシテ

常ニ他處トモバ内關節ニ變状ニ来ス
本病ハ甚ダ多形多樣ナルヲ以テ今其各症狀ヲ個
々ニ記述スルコト

(一)關節 關節ニ變化ハ多クハ滑液膜ニシテ
所患關節ニ自傷的及他傷的運動由リテ劇

痛ヲ惹ク患者僅ニ關節ヲ屈曲シ得ルニ過キス若シ
多數關節ヲ侵サレタ場合ハ毫モ肢ヲ動かスル
能ハサルニ至ル

關節ハ肥厚腫脹シ其皮膚ハ潮紅シ離離ラ失

ヒテ滑澤ナリ之ニ觸ルニ灼熱ヲ感じ指壓ニ由
リテ癰痕ヲ貽ス(是レ皮膚ノ浮腫ヤ微ナリ)若シ

大ニ關節腔内ニ多量ノ滲出液ヲ生ズルハ波
動ヲ呈スルコトアリ

關節中最多ク侵サレハ膝關節ニシテ次ハ脛骨
距骨關節ニ肩胛關節ナリ

關節ノ變化ハ一部ノ關節ニ限局(四手關節ヲ以テ)
ズシテ多數關節ニ及ス(多量ノ關節ヲ以テ)

(二) 心臟 本症、經之中、屢に心臓疾患ヲ其
ス即チ心臓内腫脹(最モ多ク其モミコトテ強ク
増大シテ侵ス)心嚢炎(稀ク)等ナリ

(三) 漿液腫及粘膜 本症、胃腸ヲ侵スガハ
ニ他ノ漿液腫脹ヲ侵ス即チ肋腫脹、或ハ
腹膜炎ヲ侵ス(然レバ心臓内腫脹、如ク多
クナリ)又時トシテ、咽喉頭、氣管及腸

胃腸モ侵サルコトアリ
(四) 皮膚 渾ク其汗ニ酸臭ヲ放ツ為ニ夥ク
ノ汗多クナリ

(五) 筋肉及神経系統 新患、胃腸附近筋
肉、炎病ヲ呈シ、輕ク腫脹ニ壓迫ニ由リテ過敏ニ

後ニ筋肉、瘦削及筋肉、麻痺ヲ呈ス

且ツ、耳痛、眩暈及粘膜炎ヲ呈スルコトアリ

(六) 血液 赤血球減少及ヘモグロビン減少ヲ見
白血球、多ク増加スルヲ見ル

(七) 其他諸臟器 從テ肺炎ヲ併發シ脾
臟腫脹ニ稀ク腎炎ヲ見ル

胎後病 心臓弁膜病 胃腸強直等

△ 経過 數日及數週ニ亘ル

△ 診断 全身症候及胃腸ヲ侵スガハ、其變化ニ由リ察スル

△ 療法 本症、絶對的安臥ヲ要ス

食糧、概シテ、二三食及、五食トシ、食物ハ、流食
性ニシテ、液、卷ラ、宜クモ、ノラ、與フ

滑る、萎縮する、骨化、水より水に吸収する性質、
 三四面に且、脈管、如く、
 石、
 特效薬、水楊酸、水楊酸、
 其他使用、
 ギョー、
 又、
 保護、

第二十

慢性關節腫痛質斯

(慢性多发性關節炎、
 畸形性關節炎)

○慢性關節
 節炎ハ多クハ
 外科的疾患
 ニシテ其原因
 ハ慢性傳染病
 即チ梅毒若クハ
 結核等ナリ

原因

本病ハ急性病ヨリ移行スルコトアリ或ハ
 初メヨリ慢性病トシテ起スルコトアリ

其病原ハ未タ明ナラズシテ、
 傷害、
 水中ノ操業、
 濯婦、
 本病ハ貧人ニ多クシテ、
 アリ又三十五歳以下ノ壯者ヲ侵スルコト稀ニシテ、
 老人ニ多クシテ、
 解剖、
 織ヲ侵スルコトアリ、
 積、

傷寒、
 寒、
 洗、
 貧人、
 稀、
 老人、
 解剖、
 織、
 積、

脈非性閉者をアリテハ、滑液膜ノミナリ
軟骨及骨質モ亦侵サレ、ラハ所患關節ノ時
形ヲヨク

△症候 本病ハ熱ナク多クハ徐々ニ起シ

其主徴ハ關節痛ニシテ疼痛ハ或ハ自覺ニ
或ハ压迫ニヨリテ起シ或ハ他動的若クハ自動的運
動ニ由リテ起ス 或ハ疼痛ノ末梢ニ放散ニ或ハ神
經痛様ヲ呈スルアリ 故ニ疼痛ハ唯運動時
ニ起シ安靜時ニ疼痛ナキアリ
患者ハ關節強硬ヲ訴エ殊ニ安靜位
之ハ朝ノ醒覺時ニ此徴候顯著ニ運動漸次
障礙セラル

腕部ハ腫脹シ漸次關節ノ變形及強直ララス
通常侵サレハ足、膝、肩胛、肘並ニ腕關節
等ニシテ趾指ノ關節モ亦侵ル
肘後ニヤラ運動スルハ屈伸ノ困難
觸知著クハ聴取ス

關節ノ變化ハ數月、數年或ハ終生ニ亘リ
アリ而テ其病候消長ヲ示シ殊ニ氣候
變換時ニ病候増劇シ 多數ノ患者ハ連日
ノ疼痛増減ニ由リテ天候變換ヲ豫言スル
ヲ以テシ

○合併症 往々心臓赤腫病ヲ見ル

○胎後病 心赤腫病、關節痛直、心同腫痛

△豫後 不良にして痼疾トナリ容易ニ癒エ難シ

△療法 痲痺斯性傷害ヲ避ケルニ

内服薬ハ急性病ニ於ケルニキ奏效ナシ

使用セラル、薬物ハ、カリウム酸、カリウム酸、カリウム酸、カリウム酸

サリチン、サリチン、サリチン、サリチン、サリチン、サリチン

サリチン、アスピリン、サリチン、サリチン、サリチン

其他甲狀腺、甲状腺、ヨロトケル、ヨロトケル

シオンタン、炭酸タアヤコ、ベニフオブリン、ベニフ

フトリン、スベリン、重碳酸、ヨロトケル、ヨロトケル

ヨロトケル、ヨロトケル、ヨロトケル

又局所療法トシテ 電気、熱、空気が、蒸

気法、光線法、砂浴、熱氣浴、局所温

温法、塩法、
硫酸法、泥法
字々效アリ

電法字々行フ

関節ノ温直ニハ、マツサチ、並ニ瑞典医ニ療ヲ

操術ヲ行フ

富饒ニ在リ、不足ニ在リ、中ニハ、暗知ナシ

海濱ニ移地スルニ

第廿一 筋肉痲痺斯

△原因 痲痺斯性傷害(感冒)ニ由リテ、其

病、筋肉ヲ侵ス、其病、筋肉ニ侵ス、其病、筋肉ニ侵ス

性ナリシ、而シテ筋肉ニ侵ス、其病、筋肉ニ侵ス

傳染性ノ者、外傷、外傷、外傷、外傷、外傷

中ニ在リ、因リテ筋肉ニ侵ス、其病、筋肉ニ侵ス

慢性筋肉痲痺、筋肉ニ侵ス、其病、筋肉ニ侵ス

慢性筋肉痲痺、筋肉ニ侵ス、其病、筋肉ニ侵ス

猶慢性間之傷在後期、於之如也

症候

甲 急性肋間傷麻質期

主徵ハ肋間痛ニテ或ハ自之或ハ圧迫ニ由
リテ發ス其疼痛ハ一カニ限ラシハ肋間腫
脹ス通テ其經過ニ移ルハ微熱ヲ
見ルアリ肋痛ノ為ニ臥シテ起スニ障
アリ其經過ハ短クテ數日ニテ再發ス恐
ク最ニ屬シ本病ニ罹ルハ九ノ如シ
一頭筋痠麻質期(項背痛 痠麻質期
性斜頸)項筋及頸筋(多クハ一側)ニ疼痛アリ
頭筋ハ傾斜シ以テ頭ハ患側ニ傾キ頭ハ健側ニ

(二)腰痛(痠氣) 本病中最も多ク見ルニテ其
骨及筋筋痛ニ至ルニ敏ナリ軀幹ニ屈曲若ク

ハ困難ナル場合ニ至ルキ疼痛ヲ著ス此種ノ
疼痛ハ之ハ外傷ニ因ルル多シ

(三)肋助傷在後期 胸筋及肋間筋

○本病ト誤リ
易キ疾患ニ
肋助傷、肋間
筋痛、肋骨
血腫、肋骨
胸筋外傷等ニ

四 痠麻質期性背痛(痠痺) 背筋及肩

五 痠麻質期性頭痛

乙 慢性肋間痠麻質期

本病ニ他病ノ變心ヲ認メズ疼痛ハ一カニ
固着スルヲ稀ニシテ屬シ此小節ハ之ニ從ヒ

氣候ノ不_レ良_ニ由_リル場合ニ、増_シ悪_シ濕_熱トシテ、緩解_ス
ス。運動ノ障害ハ僅_ク微_クニシテ、安静_ヲ好_ム。筋肉_ニは硬_ク
ノ感_{アル}ニシテ、_ナス

診_断 毛_トシ_テ、_シク_ク充_分的_ニシ_テ、詐_病ト_モ別_ル
ス。因_難ナ_リ。又_ハ脊_痛、腎_石病_並ニ_ハ下_腹
部_ノ疾_患ス。之_レ、腰_部ニ_ハ疼_痛アリ_テ、腰_痛ト_モ
云_ハル_{コト}アリ

療_法 水_楊酸_、多_根酸_等を_、ア_シキ_リシ_、ザ_レビ_リ
シ_、ア_スビ_リシ_、ラ_ウ回_フ

局_部の_疾患_トシ_テ、マ_ツサ_ケ、_最モ_モ效_{アリ}。強_ク感_付電_氣を_、
局_部ヲ_浸ル_{コト}例_之、フ_リス_、ラ_ウ氏_電氣_、已_チナ_リハ
效_{アリ}。蒸_氣浴_、熱_氣浴_、蒸_汗法_等亦_モ用_スベ_シ

按摩_ヲ行_ハハ_モ
シ_キ疼_痛ヲ_去ル_{コト}
凡_ル患_部ニ_ハシ_テ、
按摩_スベ_シ

第_二世_二 破_傷風

原_因 病_原ハ_破傷_風菌_ナリ

破_傷風_菌ハ_田畑_、庭_園土_壤、馬_糞、肥_科等_中ニ_存
在_ス。殆_ド無_限ノ耐_久性_ヲ有_ス。

本_菌ニ_由リ_テ皮_膚内_ニ穿_入ル_{コト}場合_例之_ハ泥_土ニ_汚染_ス
ル_{コト}尖_銳ニ_異物_{(竹}木_片等₎ノ_組織_深部_ニテ_ハ刺_入
ル_{コト}ニ_由リ_テ發_病ス

本_菌ハ_嫌氣_性細_菌ナ_リ。テ_組織_深部_ニテ_ハ存_在ス。然_レ、
育_セザ_レ稀_ニハ_他細_菌ト_共ニ_表面_損傷_部若_ク
ハ_粘膜_ニ寄_生シ_テ發_病ス_ルコト_{アリ}

本_菌ハ_常ニ_創傷_内ニ_存在_ス。其_部ニ_於テ_ハ猛_烈ニ_發
毒_素ヲ_産生_ス。此_毒素_ハ血_中ニ_入リ_、神_經中_樞髓_{(殊}
ハ_皮高_風

（破傷風）ヲ侵シテ中々毒兆ヲ度スルモノ

木病傳染ノ短路ハ尤ムシ

（一）竹木或ハ釘ノ刺傷並ニ外科的手術ニ由リテ本

病ヲ度スルコトアリ（外傷性破傷風）

（二）流産及分娩時ニ本菌ノ陰部ヨリ侵入スル

コトアリ（產褥性破傷風）

（三）初生兒ニ於テ臍部ノ擦傷部ヨリ侵入スル

コトアリ（初生兒破傷風）

（四）侵入ノ部位不明ナルヲ慢毒質斯性破傷

風ト云フ 此症本菌ノ鼻粘膜ヨリ侵入スル

モノナルカ或ハ僅微ナル創傷アリテ本菌侵入シ

タルモ発病時ニ其創傷ノ既ニ治癒シタルモ

△症候

甲 外傷性破傷風

潜伏期 四日乃至一二週日

破傷風其兆ハ多ク咬筋緊張ノ感若クハ嚙下

困難ヲ以テ始メ頸骨ノ上下固ク相接著シテ食

物ヲ取テ不能ス（牙關緊急）頸部ハ後方ニ屈

シ深ク枕上ニ没ス（項部強直）而テ軀幹モ亦後

方ニ反張ス（後方反張）

顔面筋強直ニ由リテ顔貌ニ種々變化ヲ呈ス（破傷

風顔貌）口裂ハ横ニ廣ガリテ少シク開キ歯牙ハ口唇間

ヨリ露出シ其状微笑スルカ如シ 而テ鼻背鼻上劍手等ハ

前額ニ皺裂ヲ現シ眼瞼破裂縮小スルヲ以テ顔面上部

鑑別疾患

（一）頸關節炎

（二）腦脊髄膜炎

（三）ヒステリー

（四）恐水病

ハ悲哀恐怖際ノ如キ状ヲ呈ス
呼吸筋ノ強直ヨリテ呼吸困難ヲ發シ上下肢ハ痙攣
性ニ伸展ス齒牙ノ間隙ヨリテ液体ヲ口腔ニ入ルモ
咽頭筋ハ痙攣ノ為ニ之ヲ嚥下スルヲ得ス
患者ニ解ルルニ、高キ音響、患者ノ嚥下ニ咳嗽
等ノ場合ニ發作ヲ誘發ス是反射機甚ク亢進
シタルニ由ル

痙攣發作ハ常ニ叫聲ヲ以テ始マリ牙關緊急ニ至
シ軀幹ハ後方ニ屈曲シ或ハ杖ノ如ク直立ス其他
前方ニ屈曲シ或ハ側方ニ傾斜スニアリ斯ノ如キ筋
肉痙攣ハ劇烈ナル疼痛ヲ伴フ患者ノ神識障
碍セラレザルヲ以テ苦痛ノ為ニ叫聲ヲ發スニ由ル

脈搏ハ頻數ニシテ熱ハ多少上昇ス

患者ハ多クハ發病後四日マテニ斃ル既ニ週間
ヲ経過シタルモノ其緣好較ニ良ナリ

死因ハ呼吸筋ノ痙攣、舌門水腫、腦出血、
嚥下性肺萎在ニ虚脱スルナリ

死亡數ハ八十九名ニ九十九%ナリ此血清療法行
ハレタル以來減少セシナリ

診断

牙關緊急、破傷風顔貌、強直性

痙攣等子ニ由リテ困難ナラス又破傷風菌侵入

ニシテ部位ト推測スルキ場所ヨリテ排泄物若

ク肉芽ヲ採多之ヲ鏡檢シ或ハ破傷風菌ノ分

離法ヲ行ヒ或ハ動物試驗ヲ行スル

乙 産褥性破傷風

婦人ノ生殖器ヲ汚ルル者モシテ子ノ汚染スルル者モ
概世物中ニ破傷風菌ヲ含ムル
本病ノ経過ニ重篤ノ外傷性破傷風ノ如シ
其潜伏期ハ四乃至十日まで
多ク其發熱シ、小兒以テ多ク、死ニ至ル

丙 初生兒破傷風

ハ胎ノ初傷ヲ汚ルル者モシテニ患部ニ於テニ
自是ニ菌ヲ伝ハシテ其病ニ腸管ノ脱着
後一日乃至五日ナリ

△ 症候 外傷性破傷風ニ似シモ其固有ナル点

ハ哺乳セシトモ毎ニ咬筋ノ痙攣ヲ其スルニナリ

丁 顔面破傷風 頭部破傷風

ハ外傷性病ニ病ニテ其特異ナル点ハ顔面神経ノ
麻痺ナリ

△ 療法 是ニ際シテ其病ニ破傷風抗毒素

ヲ含有スル治療宜シ

其病後既ニ三六時間以上経過シ、血清五百
疫單位ヲ注射シテ尚效ナキ場合ニ、更に多量
ヲ注射スル

○ 本症區ニ抗毒性ヲ有スル殺菌力ナシ、此因故ニ血清

ニ血清中ニ遊離シタル破傷風毒素ニ含有スルヤ、此種
細菌胞ト化合シテ毒素ニ其效ナシ、故ニ疾患ノ初期
ニ於テ之ヲ用ヒテ、創傷部ニ消毒スルハ效ナ

養不_レヤモ既_レ長_レ針_ヲラ_レ経_レ過_シて_レハ_レ效_ナク_レ破_レ傷_凡之
 法_ハ以_テ療_成績_ハ實_效的_カニ_シテ_レハ_レ大_ニ劣_シリ
 對_レ症_的療_法 瘰_癧ニ_對シ_テハ_レガ_ムト_ム割_レ挖
 水_ハ白_クシ_ル心_ニス_ルフ_オナ_ル心_ニ也_ハ以_テ河_片モ
 心_ニ不_ラズ_ラ内_服灌_腸又_ハ皮_下注_射ス
 病_室ハ_レ洞_絲ニ_シテ_レ暗_キ也_ヲ檢_ビ
 食物_ハ流_部ハ_レ毛_ヲサ_シ量_ニ共_ク
 創_傷部_ハ嚴_重ニ_シテ_レ外科_的不_ニ至_ラズ_也

第廿三 狂犬病 (恐水病)

原因 病原ハ未_ク詳_ナレ_ドモ其_ハ傳_染病_ニ由_リテ

スト_ロ氏_ニ依_リテ_レ証_明セ_シタ_リ

○衣服_ヲ被_レシ_テ身_體部_ヲ咬_レ傷_ハ其_中上_部咬_傷
 傷_ハ其_中上_部咬_傷液_ハ衣服_ニ依_リテ_レ感_染ス_ル也_ハ引_キ
 之_ニ感_染ス_ル也_ハ引_キ

本病_ハ病_犬咬_傷若_シハ_レ紙_觸ニ_由リ_テ唾_液中_ニ存_在ス_ル
 病_毒ハ_レ体_内ニ_進入_ル也_ハ起_ルモ_ニシ_テ其_病主_ニ神_經
 注_織維_ニ傳_ハリ_テ衝_次中_枢ニ_輸送_セラ_レテ_レ病_毒
 侵_入ル_場所_ハ中_枢ニ_近キ_程其_病迅_速ニ_進ス_ル也_ハ

症候 潛伏期ハ平均_ニ廿_日乃至_ニ六_{十日}ニ_至ル

○(甲) 躁狂 本病_ハ九_ノ三_期アリ

(一) 前兆期 (鬱憂期) 咬傷部_ニ異常_ノ感_覺痒
 感_灼熱_蟻走_感疼_痛アリ 屢_ニ患_例ノ_口肢_ニ震
 戦_ス及_シ或_ハ咬_傷部_{附近}ノ_筋肉_ニ搖_擻ヲ_及ス_ルアリ

- (一) 破傷風
- (二) 傷性恐水病
- (三) 酒客譫妄
- (四) 癲癩
- (五) 延髓球麻痺

（赤大赤）

係

患者百憂毒之陥り外界ノ関与ヲ厭ヒ閑静ヲ好ム、
 次デ幾何ナラズニテ患者甚シキ不安ヲ来シ頻ニ外
 出ス而テ之收方ノ為ニ一時安静ヲ守ルル一アリ其睡
 眠不安シ 或一時快快トナシアリ更ニ甚
 直交ノ状態ニ復ス 此期ノ持続ハ二日乃至八日
 (二)發揚期(恐水期) 病毒ノ延髄ヲ侵ス期ニ
 シテ呼吸氣筋ノ痙攣ヲ来シ呼吸不正トシ呼吸
 鳴咽ス之上同時ニ慘痛ナル苦悶及窘迫ノ感覺
 アリ次デ嚙下困難ヲ来ス
 亦病ニ固有ナル症候ニ嚙下困難ニシテ患者飲食
 物ヲ厭ヒ忘スルニ至ル 且中病ニ恐水病ノ行ハル
 以テ嚙下痙攣ヲ来シ 故ニ嚙下此期ノ場合ニシテ

ズ水ヲ視ニ或ニ之ニ関スル許活ヲナス場合ニ起リ、
 其他身体ノ刺戟、枯水ノ興奮、五官ノ刺戟ニ
 由ル之ヲ来ス(是延髄ノ反射機ノ亢進ニ由ル)
 皮膚及肥反射ヲ亢進シ 瞳孔反応鋭敏
 トナシ

漸次腦半球ニ變化ヲ起シ患者ニモシ不安トナリ
 躁狂ヲ来シ譫言、幻覺ヲ来シ赤音嚙咬ス
 時トシテ咬嚙運動力ヲナセドモ同病中停メラ侵
 ストナシ 其ニ間歇時ハ邪激故ニ復ス
 患者呼吸短トスル一然ハザラシテ多量呼吸
 ノ口ニ涎出スヲ見シ
 液体ヲ飲ムコトヲ嚙下痙攣ヲ起スモ固形食ハ

尚暫時極成しほんモノトスセド好こむしハ亦不能也
緊要の症候ハ震戦ニシテ舌上肢及顔面
 於テ之ヲ見ル(患肢ハ健側ヨリモ震戦溢シ)
体温 既ニ本期ニ於テ微熱ヲ見ルモノアリ
 本期ニ於テハ振モ三十七度九分乃至三十七度
 九分間ヲ昇降ス而テ病勢ノ進ムニ於テ体温
 急上昇シ本期ニ及ニ俄然下降ス乃至四十一
 度ニ達シ之ヲ見ルモノアリ
脈搏 頻數ニシテ通常一ノ向百ノ以上ニ達
 シ石心ニシテ且続停ス
呼吸 ニ不安ニシテトコリ等ニシテストップスモ呼吸
 限ルモノアリ

此期持續一日乃至三日

(三) 麻痺期 於テハ諸般刺戟症状漸次後
 解シ呼吸及嘔下症等止ニ再ニ嘔下作用ヲ
 嘗シトルモ漸次麻痺症候増進ス

本期ハ人熱ニ於テハ其ノ短ク通常二時乃至
 六時間ヲ与ス 往ニ既ニ瘧疾期ニ於テ死スルコト

(乙) 靜狂 本症ハ強ク侵入シテ時況々病毒

ノ多ク体内ニ窺入ルル場合ニ於テモニシテ四條狂症
 ノ如ク倦怠動作不安惡寒其熱腸胃症候ニシテ
 黃病ニ凡シ症等症候缺如ス
 咬傷ヲ受ケタル四肢ニ強直感ハ重感ヲ察シ咬傷
 附近ハ筋肉ニ搐搦症等震顫ヲ及シ運動不整

トナリ遂ニ全ク麻痺ニ陥ル 時トシテ舌顔面及

顔筋ノ麻痺ヲ著スルコトアリ

而テ患者漸次衰弱症候ヲ著シ遂ニ心肺麻痺
又ハ窒息ニ申リテ死ス

△**診断** 狂犬ノ咬傷ヲ受ケラレバ呼吸ルセト

症多ク著スルハ本病ノ診斷ヲ下シテ可シ

疑ハシキ場合ニ動物試驗ヲ行フコト

△**療法** 咬傷部ヲ直ニ燒灼シ或ハ苛性加里ヲ

用テ之ヲ腐蝕シ洗滌薬トシテクシオリシ又ハ水場

酸液ヲ用フ

負傷者ニ可及的速ニパスツール氏狂犬病豫防

注射法ヲ行フコト(即チ即チ弱狂犬病毒ヲ注入シ習

慣スルニ付テ強毒ヲ用ヒ其潜伏期間ニ於テ免疫
性ヲ得セシムコト)

既ニ本病ヲ著シクシ若ハ治療ヲ却テナシ

對症療法トシテ抱水カクラン、若クハカ、フカムヲ與テ

第廿四 流行性耳下腺炎

△**原因** 流行性又ハ散在性ニ現ル、筋接傳染病

小兒及少年ニ多ク又男性ニ多ク

△**症候** 潜伏期平均二週日

熱性病ノ一般症候ヲ著シ次テ偏側(殊ニ右側)ノ耳

下腺腫脹ニ結テ他側ノ耳下腺ヲ侵ス腺化膿ス

△**経過** 一週乃至二週ヲ要ス

△**合併症** 盲肠炎(多ク一側ニテ數日ニテ消散ス

ノ流行性淋病等)

可トス

流行性下痢症 流行性眼耳炎

△療法 局部のワセリン塗布にて其堅皮を減らす

寧ろ丸にて其寧ろ丸ヲ提挙し或ハ氷嚢ヲ貼ス

第廿五 流行性脳脊髄膜炎

△原因 病原は胞内重球菌(胞内脳膜炎を造球

菌)ナリ之トシテ膠体内ニ存シ其外細菌人ノ

痲毒菌ニ類ス其経路ハ恐ラハ鼻腔ニ入リ脳

膜ニ達スルモノナリ

流行季ハ冬季及春季ニシテ殊ニ兵士

子ニ小流行ヲ為ス小兒及壯者ハ本病ニ罹

リ易ク男女ハ関係ナシ

△解剖 軟脳膜及脊髄膜ニ於テ病アリ其症状

ニ志シテ各小ノ變化ニ從弱アリ

膜ノ空腔膨起及膜ノ厚化膿性ホ病アリ血管

沿ヒタル部分及膜表面ノ溝ニ於テ殊ニ著シ脊髄

ハ殊ニ後部著シク侵サレ下部ニ上部ヨリニ變化

強シ

△症候 突然發生ス(往々一二日間前駆症

トシテ一般ノ痲痺感覺惡寒不安頭痛背

痛四肢牽引痛アリ)

惡寒戰慄シ以テ其熱ヲ熱三十九度ニ達シ

脈數增加ス強クハ疼痛眩暈嘔吐光線

及音聲ニ對スルニ敏痛キアリ一乃至二日ヲ經

テ項部強直ヲ發シ次ニ頭痛並ニ不安ノ

症状劇甚トナリ速者譫妄ヲ起ス

頭痛不安譫妄

項部強直
筋拘攣
頭部屈曲固定
牙關緊急
角弓反張
知覺過敏

トルソー氏斑

驕注
肚腹陷沒
便秘尿閉

昏睡

瞳孔散大

斜視

匍行疹

筋拘攣、延テ頸背、軀幹、四肢、及ビ頭部
ハ殆ト直角ニ屈曲固定シ、牙關緊急及角弓
反張アリ、皮膚及筋肉、知覺過敏トナル(皮膚
筋肉ハ解拘攣及自働的、他動的、運動部ニ由
リ疼痛ヲ惹ス)皮膚ニ硬チ物作テ増シトス
ルニチチ散ラカシニ其部ニ久シク消エザル紅
色ヲ殘ス(膜膜ヲ性若クハトルソー氏斑)紅
斑ハ又高アリテ若シテ驕注スルコトアリ(膜膜
ヲ性若クシテ)便秘結シ、肚腹舟底状ニ陷
沒ス、通ルル尿閉スル氏斑ハ其部ニ尿量ハ
往々増加シ、尿中ニ糖ヲ含ム
惡性ノ者ハ既ニ一周向内ニ昏睡ヲ惹シ、痲痺

症候ヲ呈シ、瞳孔散大シテ光線ニ反應ス、其
他視神經ヲ斜視ニシテ顔面痲弱ヲ惹ス、
又暈、痲痺、偏癱、截癱アリ
睫反射或ハ亢進シ或ハ減退ス
予一日ニ於テ既ニ口唇ニ匍行疹ヲ惹シ又顔面
耳及四肢ニ匍行疹ヲ惹スルコトアリ、往々痲痺
腫大ス、熱型ハ不定ニ弛張ス
多シハ予一周、終又ハ予二週中、痲痺在在又ハ
心腕痲痺ヲ以テ斃ルルニ至ル、或ハ進一退ニテ數週
以上ニ亘ルコトアリ
△**診断** 頭痛、脊推痛、眩暈、嘔吐、痲痺、
眼耳皮膚及筋肉過敏、項部強直、膜膜

解剖的变化 脾腫、加呑現性肺炎、腎実
質を、さアリ原炎性腺腫及續炎性腺腫(刺
咬部より遠隔しん場所)ヲ其マ

症候

潜伏期 約九日

前駆症

倦怠、食慾不進、頭痛(或ハ熱ヲ)

悪寒ヲ以テ發熱、二三日ニテ高熱ニ達シ一二週
間稽留、徐々ニ散淡ス

腺搏ハ熱ニ比シテ少ク(一カ向九十乃至百)実ニテ重複

皮膚ニ紅斑アリテ附近ノ淋巴腺腫脹ニ過敏ナリ

(第一腺腫) 顎口腫脹若シテ水泡ヲ現シ其直

徑三乃至六密送若シハ仙送ニ達ス性ニ水泡化

膿シテ其中央より乾涸シ始メ蜂窩様ノ黒褐

色ノ痂皮ヲ生シ其痂皮ヲ除ケハ噴火口状ノ潰瘍ヲ殘ス
斯ル如キ痂皮ヲ生スハ一ヶ所ニシテ多クハ陰囊、腋窩、
膝胸、鼠蹊部、如キ柔軟ニ部々ニ現ル
顎口附近ノ淋巴腺、豌豆大乃至鳩卵大ニ腫脹シ
疼痛アリ遠隔ノ淋巴腺モ亦多少腫大ス(亦腺腫)
亦週終若クハ亦二週ノ初ニ於テ其皮膚ヲ赤ス其疹
ハ大蕾疹又ハ蕁麻疹ニテ大ハ帽針頭ハ豌豆
大乃至示指頭大ニテ少クハ隆起シ赤毛若クハ紅
色ヲ呈シ円形若クハ不正形ナリ疹ハ指圧ニヨリ褪
色シ搔痒ヲ惹クス概ネ數日ニシテ脱落シ伴ハス
テ消散シ顔面殊ニ頰部ニ甚シ次テ軀幹及四肢ニ現ル
心尖ニ收縮期雜音ヲ聞キ白血球ハ減少ス

- 鑑別疾患
- 一 徵毒性結節
- 二 狼瘡
- 三 白癜風
- 四 斑皮病
- 五 脊髄空洞症
(モルウアニ氏病)

頭痛、知覚過敏、筋肉、搐搦あり、神威、昏瞶、

譫語及躁狂状發作あり、其の漸次嗜眠、昏睡、

眼、結膜、充血及涙漏、羞明あり、耳鳴、重聴、

發熱、食慾不進、口渴あり、悪心、嘔吐あり、其の便秘あり

當心、圧迫感あり、敏なり、瞬、肥大、肝、モ亦、肝、下、

發疹期、白血球、減少あり、多ク、氣管支、及、

腎、系、の、咳嗽、喀痰あり、往々、氣管支、肺、を、統

治ス、尿、濃、厚、ニシテ、強、酸、性、蛋、白、ヲ、含、有、ス

多ク、ハ、十、日、乃、至、三、日、ニ、死、ス、持、続、ハ、三、四、週、日

診断、昆、虫、螫、刺、好、其、部、の、皮、膚、の、痲、皮、を、

豫、後、腫、脹、及、固、有、ノ、其、疹、を、ニ、ヨ、リ、テ、容、易、ニ

豫、後、死、亡、數、ハ、十、二、乃、至、四、十、%

△豫防法 危險地ニ赴カザルヤク注意シ、危險地

ヨリ、汚、毛、を、入、浴、ス、ル

△療法 蝥、口、ニ、蝥、ヲ、見、出、シ、タ、ル、中、ハ、之、ヲ、損、傷、セ、テ

ヤク、針、ニ、テ、摘、出、ス、ベシ

既ニ、蝥、病、シ、タ、ル、好、對、症、療、法

第廿七 癩病

△定義 癩菌ニ由リテ、其、ノ、慢、性、傳、染、病、ニ、主、ト

シ、テ、皮、膚、粘、膜、及、末、梢、神、經、ヲ、侵、ス

△原因 癩菌

ア、リ、ニ、シ、テ、氏、ニ、接、種、試、験、シ、行、ヒ、陽、性、ノ、成、績、ヲ、得、タリ

種、痘、及、患、者、ト、交、通、シ、タ、ル、為、ニ、直、接、或、ハ、間、接、傳

染、セ、ル、事、實、アリ

ノ、癩、病

其傳深、甚緩慢なり（是患者生活菌ヲ排泄スル
少キト、本病ヲ發生セシムルニ、特異ノ感受素質ヲ有シ
癩菌ノ侵入ヲ受ケタル者必シモ其病スルニアラザレドモ
由）古人ノ遺傳ヲ主張シタレ今日ニ於テハ傳染説勝
シト云ム

癩菌、人体内ニ侵入スル所ハ、未タ明ナラザレド、恐ク
ハ皮膚ノ小竅、及粘膜、腺、汗腺、等ニ在リ

年齢ハ二十歳乃至四十歳ノ間ニ多ク、一歳多ク
潜伏期 多ク年ニ及ル

症候 臨床的症候ニ依リテ、九ノ三種ニ區別シテ
説クラ便トスサレド、三種ニ移行スルコトアリ

甲 斑紋癩

皮膚ニ赤色若クハ赤褐色ノ斑紋ヲ呈シ、其形状多クハ不
正形ニシテ、地圖状ヲナシ、或ハ円形ニシテ、寄生性菌行
疹ノ如ク、赤色若クハ赤褐色ヲ呈シ、稍隆起シ、漸
次周圍ニ向ヒテ蔓延スル者アリ、其部ノ皮膚ハ知覺
鈍麻スルコト屢々、顔面、背部、臀部、及四肢ノ伸展
部ニ多ク

乙 結節癩

倦怠、枯水不快、冷寒、蟻走、鈍麻等、知覺異常
四肢疼痛、背痛、頭痛、眩暈、嗜睡、多汗、血
血、鼻出血、及熱、發疹、前駆症候アリ、次テ顔面及四
肢ニ斑疹ヲ發ス、此疹ハ初メ知覺過敏ニシテ、或ハ掻痒
ノ感ヲ發スルコトアリ、此斑疹ハ再ビ消失シ、時トシテハ唯

僅ニ色素ヲ残スルコトアリ或ハ變シテ結節トナリ而シテ其近接セル結節ノ相融合スル由リテ滲潤ヲ現スル也
結節ハ皮下結締織内アリテ皮膚表面以下ニ埋没スルコトアリ或ハ皮膚表面上ニ隆起スルコトアリ大サ小豆大乃至榛実大ニシテ色ハ通常暗赤色トシテ後ノ黄褐色ニ變シ灰白色ヲ帯フルコトアリ
熱發ト共ニ身体一部分ニ丹毒様ノ潮紅ヲ示シ結節ヲ新生スセド其結節ハ退行變化ヲ受シ軟化シテ色素斑ヲ殘シテ吸收セルコトアリ或ハ小膿疱ヲ形成シテ好小潰瘍トナルコトアリ
斯ノ如ク舊結節ノ退行變化スルト共ニ他方ニ於テハ多ク新結節ヲ發生スルコトヲ結節及滲潤ハ漸ク増加ス

最モ多ク結節ヲ生スル部ハ顔面四肢伸張部ニシテ顔面結節形成為ニ固有ノ外觀ヲ示ス而シテ前頭部眉毛部多數ノ結節ヲ發生為ニ肥厚隆起シ、頬部口唇頭部及耳殼ニ腫起硬化ヲ示シ鼻橋鼻下より眉毛睫毛及鬚髯脱落シ其顔貌獅子面ニ酷似ス(獅子顔)
粘膜モ亦皮膚ノ如ク變化ヲ受シ鼻口腔咽頭、喉頭及食道ニ於テ結節及滲潤ヲ示ス此等前部崩壞シテ潰瘍ヲ受スル傾向アリテ漸次深部ニ侵蝕ス
眼ニ於テハ結膜角膜及虹彩ニ結果若クハ蔓延性滲潤ヲ見ル
淋巴腺モ亦侵サレ殊ニ頸下腺頭腺及鼠蹊腺ハ著明ニ腫脹ス

零丸の漸次萎縮 婦人ニ於テハ月經ヲ萎ルニ一應ク且
其期日不正ニシテ妊娠スルヲ稀ナリ
木病ノ經過中ニ時ニ熱發スルアリ
經過 慢性 進行性 通常八年乃至十年ニ

丙 麻痺癩

前驅症トシテ熱發並ニ各部ニ癩癩質斯性或ハ
神經痛性疼痛アリ之ニ知覺異常ヲ伴フ皮膚
ニ於テハ斑狀ヲ生ス其斑狀或ハ灰白色若ハ暗
褐色ヲ呈スルアリ(黒癩)或ハ鮮白ナルアリ(白癩)
或ハ皮膚ニ水疱疹ヲ發スルアリ(癩病性天疱疹)
斑紋ノ大サ不同ルモ大ナルモノ多ク鶏卵或ハ手掌大
ニ達スルモノアリ 其好發部四肢殊ニ膝部肘

部 手背及足背ナリ

身体ノ一部分ニ於テ知覺麻痺ヲ發ス(是癩病性
神經炎ヲ起スルニ由ル)輕度ノ麻痺ニ於テ殊ニ痛神
及温神ニ失スルモ後ニ全知覺(觸神痛神部
位神並ニ温神)皆ニ失ス(知覺麻痺癩)
膝蓋腱反射ハ初期ニ從ニ亢進スルニ漸次減退
シ遂ニ消失スルニ由ル

神經ノ觸ルルハ肥厚ヲ認ム最屢侵シハ七ニ十神
經並ニ尺骨神經ナリ

疾患ノ初期ニ神經ハ压迫ニ對シテ過敏ナル病
勢ノ進ムニ於テ其過敏性ハ漸次消失スル
知覺麻痺ト共ニ運動障礙アリ而テ適宜筋肉

萎縮アリ其痿弱ヲ甚ス 最屢侵セル顔
 面ニ及ビ之ナリトモ 顔面筋ニ萎縮及麻痺ヲ其
 し感傷ヲ表出スル下ラハス 本病ニ於テ顔面
 神経麻痺ニ未梢性ニテ兩側ニ現ルヲ特徴トス
 手ニ運動障礙ヲ及シ 拇指球小指球及有爪
 筋瘦削シ且屈伸筋筋過勝スルニ致シ爪
 ヲ現ス 次テ上下肢共ニ侵セシ其運動障礙セシ
 所裏筋肉電氣亢奮性減少シ後ニ不全若クハ完
 全ニ变性反應ヲ呈ス 累積的亢奮性亢進ニ繼
 性筋肉搐搦アリ 營養神經モ亦障礙セラル
 病勢進行ニキ一方ニ知覚脱失ヲ起シ他方ニ栄
 養障礙ヲ甚クシテ慢性潰瘍ヲ生シ指趾若クハ

全手之脱落ニアリ

經過 斑紋癩、麻痺癩、慢性ナリ

診断 固有之症候ハ尤ク也

- (一) 顔面及前頭部腫脹 潮紅並ニ著色
- (二) 頭髮ノ存在ニ拘リ眉毛脱落ス
- (三) 前額、頬、鼻頭及手背ニ於テ結節形成
- (四) 眼變化(睫毛脱落、眼瞼腫脹、結膜黃色、
光輝、角膜濁濁等)
- (五) 鼻腔及咽頭潰瘍
- (六) 四肢等ニ於テ結節若クハ斑紋
- (七) 知覚麻痺、運動及營養障礙
- (八) 神經肥厚等

以上ノ臨床的症候ハ高

進テ細菌的検査ヲ行フニ 鼻や侵サレハ鼻腔
ニテ其分泌物ニ就テ細菌ヲ検査シ或ハ患部
ノ皮膚一郭ヲ切取テ検査ス

豫后 不良

療法 本病ノ傳染及蔓延ヲ防クガニ患者ヲ治
癒スルニ收容シテ嚴シク隔離スルヲ要ス
患者ノ咳痰、鼻液、尿等ハ消毒スル
本病ニ特效薬ナシ

藥劑トシテ用ニスルハ大桐子油ニテ一日二回
〇シ用フ 其他サリケル硫、クレオソート、イヒチ
オール、ホアンチン、ワベルクリン等ノ内服或ハ皮下注
射ヲ用フ

硫黄浴モ亦常用セリ 草津温泉治、冬治法モ
亦效アリトス

癩病患者ハ知覚消失スルヲ火傷及外傷ノ支
弁ルヤウ注意スル

第廿八 デング熱

△定義 本病は急性熱性傳染病にして熱、関節痛、
及び胸内疼痛並に多様な疹を生じ、濕帯及熱帯
地方に多し

△原因 病原は未だ不明ナリ

本病は船橋傳染性にて千八百七十年サンフランシスコ
流行し、其翌年船舶によりアデニに傳ひ、次チボム
ペイニ入り、更に印支に流行せしむ

本病傳播の主な者及日常生活体にて、セトオチ病
唯熱帯に存在し、濕帯に於ては夏日より秋に
流行し、男女、年齢、職業等より大體係らず、
本邦に於ては古来小笠原諸島に於て流行スト云フ

○デング熱

一、本病之病室を以て因之に感除るが故に之を

症候 潜伏期一日乃至三日間あり

本病之症候は二期に分ち

悪寒

第一期 發熱期 本病は突然悪寒を以て

發熱し三十九度乃至四十度以上を達す 同時に劇

しい頭痛、腰痛あり 殊に固有の膝關節

疼痛と其他は指手腕肩胛骨、諸關節に

於て疼痛あり

以て肉の疼痛及び皮膚を過敏あり

殊に本病に固有の消化系統に之を急不

消化症候

舌苔、口臭、食慾不振及び嘔吐瀉あり

屢に過性皮膚疹あり 皮膚を黄赤し(或は多樣

一過性皮膚疹

疹を以て多し) 顔面赤紅、眼瞼腫脹、結核光

白、羞明、咽頭及扁桃腺炎あり 其候了期、如きい

て之に類似の病候あり 胃腸炎及便秘を以て

六種徴を以て集めて、氣管炎を加えて之を

二期の發熱期とす

第二期 發熱期

多くは三日乃至五日に於

て体温下降して發熱を、終る是れが本病の

極小の病室を以て、麻痺、如きい、或は丹毒、如きい、

解熱、如きい、瀉を以て多し、顔面、手足、胸、及

持続三日間

疹ハ多樣

疹ハ多樣

疹ハ多樣

疹ハ多樣

疹ハ多樣

疹ハ多樣

疹ハ多樣

疹ハ多樣

疹ハ多樣

疹ハ多樣

シ其ス而シテ之上同時ニ多ク瘧疾性紅疹ニ類似
シ其瘧疾ノ現ス極多ク其経過ニ二三週間乃
止數日ナリ

△豫後良

△豫治法 流行地ヲ去ルニ於テハ瘧疾ノ行ヒ本病
ヲ免ルニ時ニ患名ニ瘧疾ニ其使用シ先患器具
衣服等ヲ洗ハス

△瘧疾 熱疾ノ一ニシテ病ノ初期ニ於テ用ヒニ効
アリアリ有熱時ニ瘧疾性念物ヲ與ニ致痛病
痛及筋痛ニアリトシテ用フニ瘧疾性
毒ヲ不滅病ニ是等加里拾水台ナリ
ヲ投シ吐ニ水片ヲ嚥下セシメ皮膚搔痒ニ

温治ヲ行ヒ或ハ冷水ニ洗滌シ拾水台ナリ(二%)
研碎(十瓦水三石瓦)コカトシ瘧疾若ク軟膏(二
%)ヲ用スル
恢復期ニ張牡膏ヲ用フ



田中 病理
橋本 外科
新纂 外科各論
公 總論